

ともまなびガイド

全ての生徒に「できた」や「分かった」
を実感させたい



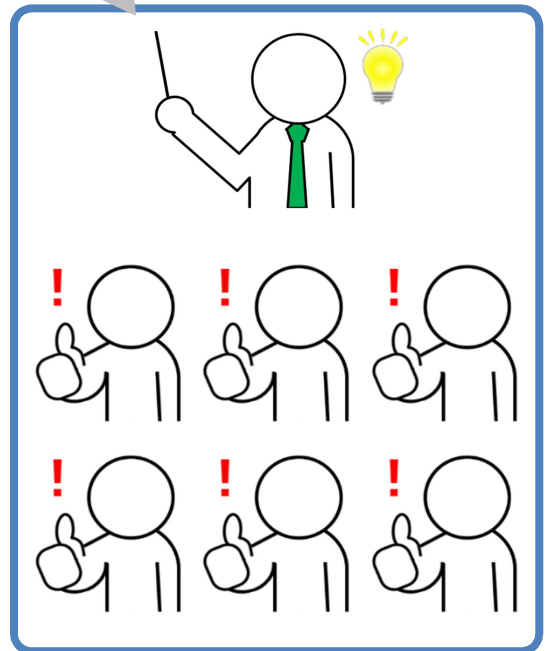
「ともまなびガイド」の活用方法
がイメージできる
年間活用モデル

学習の困難さや認知特性に応じた
配慮や支援の手立てが分かる
特性理解編

実際の配慮や支援の手立てを記録
したり、授業UD化をチェック
したりできる
実践活用シート

特別支援教育を推進するための
知識を確認する
知識編

発	達	障	害	の	特	性	を	有	す	る
中	学	生	が	通	常	の	学	級	で	
周	囲	の	生	徒	と	共	に	学	ぶ	
た	め	に								



「ともまなびガイド」もくじ

<年間活用モデル>

「ともまなびガイド」の年間活用例	1
------------------	---

<特性理解編>

認知特性と授業

1 認知特性とは	2
2 情報処理過程とは	3
3 認知処理様式とは	4
4 認知特性を意識した板書例（数学編）	5
5 認知特性を意識したワークシート例（保健体育編）	7

学習の困難さごとの配慮や支援の手立て

1 学習の困難さを示す生徒の姿	9
2 「聞く」ことに困難さを示す生徒	11
3 「話す」ことに困難さを示す生徒	13
4 「読む」ことに困難さを示す生徒	15
5 「書く」ことに困難さを示す生徒	17
6 「計算する・推論する」ことに困難さを示す生徒	19
7 「不注意」に関する困難さを示す生徒	21
8 「多動性・衝動性」に関する困難さを示す生徒	23
9 「対人関係・こだわり」に関する困難さを示す生徒	25

適切な評価を行うためのワークシートや定期考査、小テストの工夫

1 ワークシートや定期考査に取り組むときの情報処理過程	27
2 ワークシートや問題、解答の作成と採点の配慮	28
3 個別の配慮や支援の例	30

「ともまなびガイド」もくじ

<実践活用シート>

1 個別の配慮・支援シート	31
2 授業UDチェックシート	34

<知識編>

インクルーシブ教育システムの構築について

1 インクルーシブ教育システム構築に向けて	35
2 インクルーシブ教育システムとは	36
3 インクルーシブ教育と特別支援教育の関係	36
4 多様な学びの場とは	37

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業について

1 授業UDとは	38
2 授業を支える環境づくり	40

合理的配慮について

1 合理的配慮とは	41
2 合理的配慮の観点	42
3 合理的配慮の提供に向けて	43
4 合理的配慮Q & A	45

基礎的環境整備について

1 基礎的環境整備とは	47
2 合理的配慮と基礎的環境整備の関係	48

「ともまなびガイド」の年間活用例

年間活用モデル

「学年や校内の体制」

年度始めの校内研修など

「特性理解編」「知識編」の活用

- ・授業UDや合理的配慮の視点での授業づくりや特別支援教育に関する用語や制度を確認

学年部会、校内委員会など

「個別の配慮・支援シート」の活用

- ・前年度から継続して配慮や支援が必要な生徒についての情報の共有化*
 - ・小学校からの引継ぎ内容の共有化
- *前年度に配慮や支援を行っていた生徒は4月から継続して配慮や支援をしていく

4月～5月中旬

「教師」

授業UD化のチェック

「授業UDチェックシート」の活用

- ・教師自身、教師間で授業UD化の状況を確認

発達障害の特性を有する生徒の確認

- ・教科担任、特別支援教育コーディネーターの観察（授業参観、ノートや作品などの間接観察）
- ・校外学習等での行動を観察
- ・「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」の実施

学年部会、校内委員会など

「個別の配慮・支援シート」の作成

- ・生徒の学習の困難さや認知特性などを確認
- ・背景要因の検討
- ・全教科で共通して実施する配慮や支援の検討
- ・検討内容をシートに記入

※既に個別の指導計画の様式がある場合は、個別の指導計画作成時に、「個別の配慮・支援シート」で参考になりそうな項目を活用してください

5月下旬～6月上旬

教科指導での配慮や支援の検討

「特性理解編」の活用

- ・認知特性や認知処理様式の確認
- ・学習の困難さを基に、実施する配慮や支援の検討

「個別の配慮・支援シート」の作成

- ・これまでの授業で見取った生徒の実態と実施する配慮や支援を記入

6月中旬～3月上旬

検討した配慮や支援の実施

学年部会、校内委員会など

「個別の配慮・支援シート」についての助言

- ・作成されたシートの内容を評価
- ・より効果的な配慮や支援についての検討、助言

学年部会、校内研修など

「知識編」の活用

- ・家庭訪問や教育相談に向けて、合理的配慮の提供までの流れや基礎的環境整備についての再確認

長期休業中（8月・12月）など

配慮や支援の評価

「個別の配慮・支援シート」の活用

- ・実施した配慮や支援について評価



「特性理解編」の活用

- ・評価を基に、配慮や支援の加除訂正



「個別の配慮・支援シート」の作成

- ・次学期に実施する配慮や支援の記入

授業UD化のチェック

「授業UDチェックシート」の活用

3月中旬

学年部会、校内委員会など

「個別の配慮・支援シート」の作成

- ・1年間実施した配慮や支援を評価し、次年度に向けて、新2、3年生用のシートを作成する

卒業生用引継ぎ資料の作成

「個別の配慮・支援シート」の活用

- ・蓄積してきたシートを基に、進学先への引継ぎ資料を作成する

※発達障害の特性を有する生徒の確認は、6月中旬以降も随時行ってください

1 認知特性とは

認知特性とは、目で見ると、耳で聞くなどの五感を中心とした感覚器から入ってきた様々な情報を、脳の中で「整理」「記憶」「理解」する能力のことです。

- ① 「視覚優位」…情報を「見て記憶する」のが得意
- ② 「言語優位」…情報を「読んで記憶する」のが得意
- ③ 「聴覚優位」…情報を「聞いて記憶する」のが得意

同じ情報を見聞きしても、誰もが同じ方法で整理したり、記憶したり、理解したりしてゐるとは限りません。人には、それぞれ認知の仕方に得意不得意があります。ただし、これらの認知特性は、バランスよく活用している人もいれば、得意不得意の差が大きい人もいます。


3つの認知特性の要素を取り入れた授業を展開することで、生徒が自分の得意な学び方を選択して学習し「できた」や「分かった」を実感することにつながります。

特性理解編

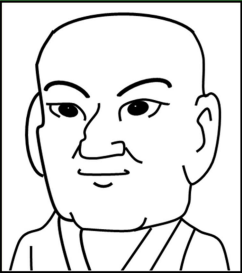
例えば、平安時代の仏教を学習するときには

平安時代の仏教

宗派	てんだいしゅう 天台宗	しんごんしゅう 真言宗
開祖	さい ちょう 最澄	くう かい 空海



寺院
えんりやくじ
延暦寺

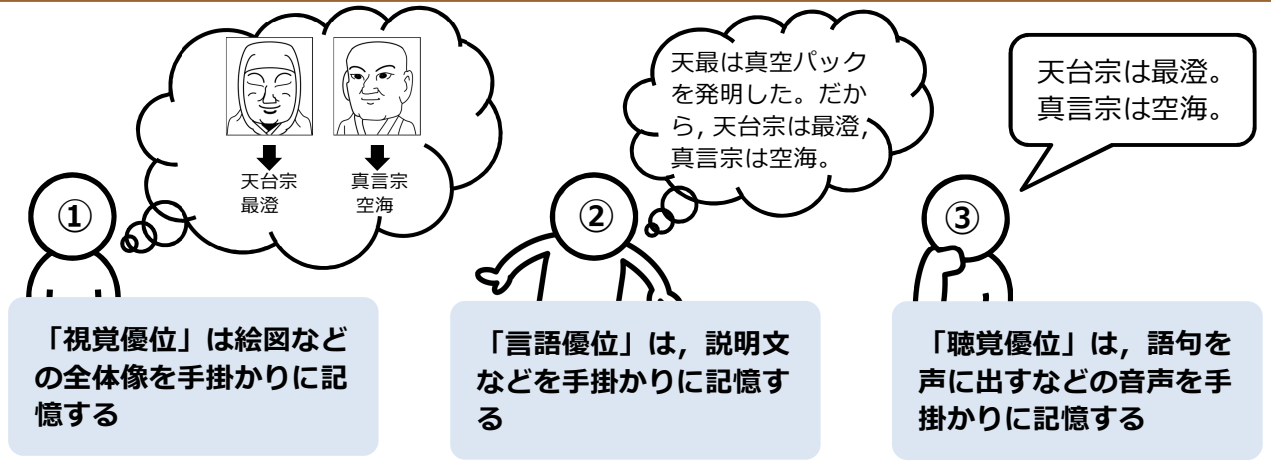


こんごうぶじ
金剛峰寺

【語呂合わせでの覚え方】

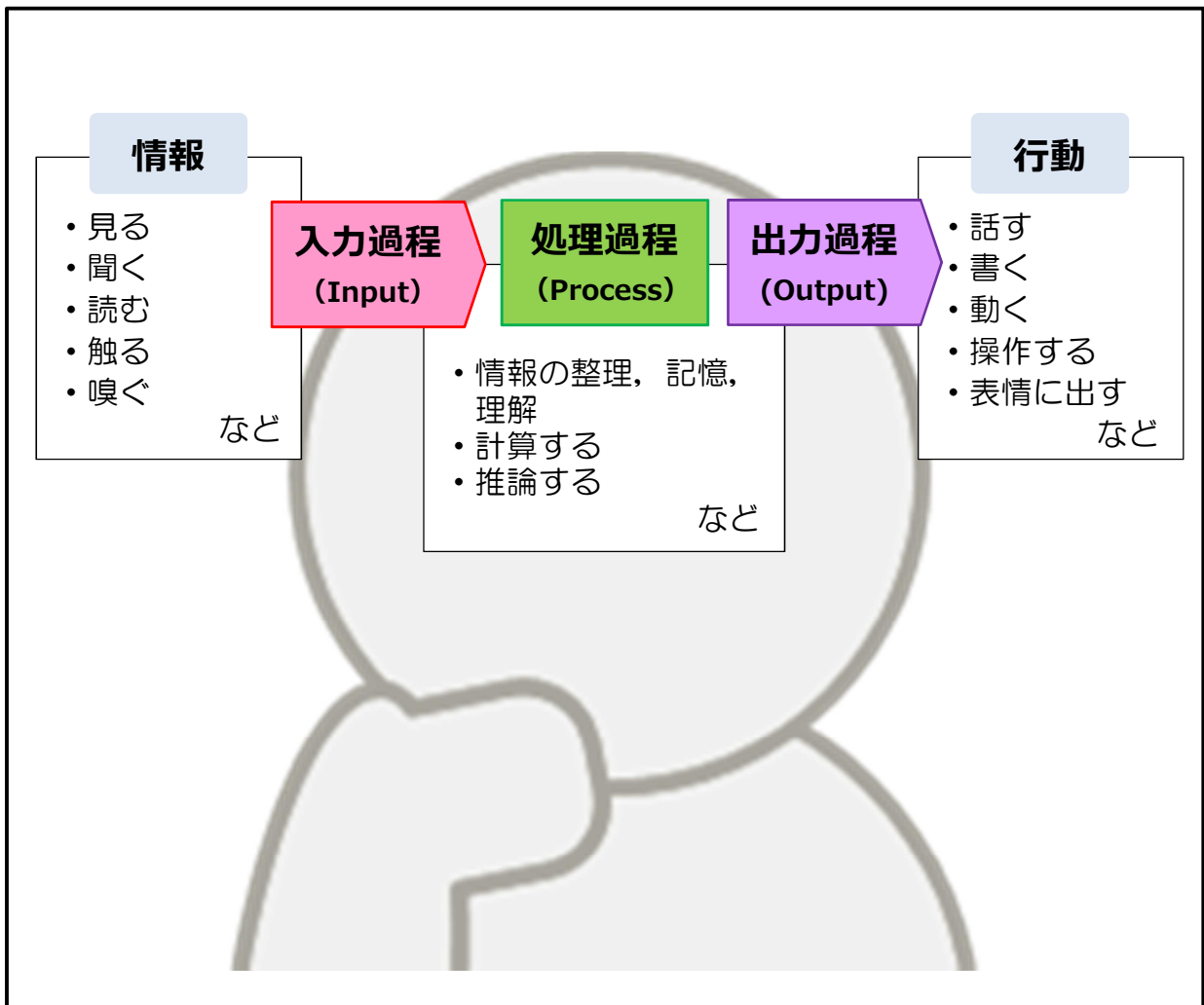
天台宗・最澄 真言宗・空海 だから

天最は真空パックを發明した（才）



2 情報処理過程とは

人は、見る、聞く、読む、触る、嗅ぐなど感覚器官を通して外部からの情報を入力し、脳内で情報を整理したり理解したりして、どのように行動すればいいか処理（判断）し、話す、書く、動くなどして出力しています。この一連の過程を情報処理過程と言います。



※図は情報処理過程のイメージです

発達障害の特性を有する生徒は、入力過程、処理過程、出力過程のいずれかにつまずきがあり、学習の困難さを抱えてしまう可能性があります。

学習の困難さごとの配慮や支援の手立てについては、「特性理解編」p.11～p.26に掲載しています。



3 認知処理様式とは

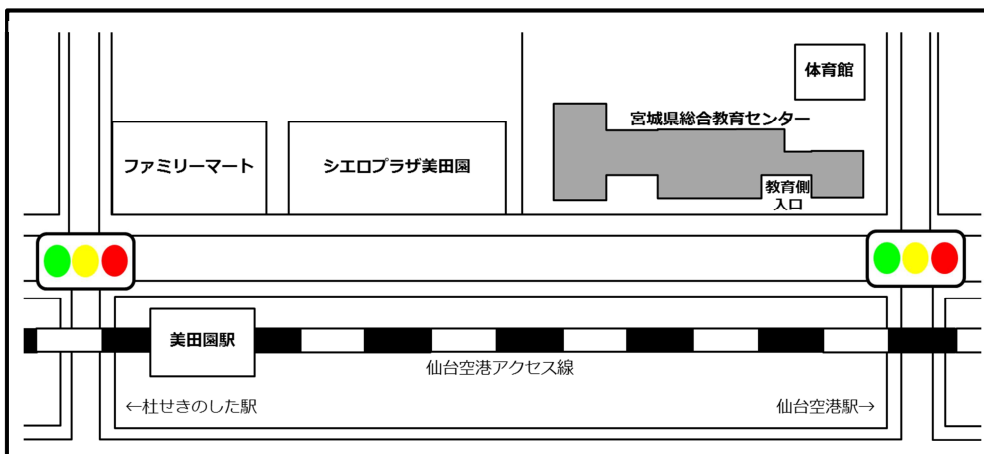
人が情報を整理したり、記憶したり、理解したりする方法には「継次処理」と「同時処理」があると考えられており、2つを合わせて認知処理様式と言います。通常はどちらもバランスよく発達するとされていますが、発達障害の特性を有する生徒は、認知処理様式が偏っている可能性があります。

「継次処理」 …情報を一つずつ順序立てて理解する方法

「同時処理」 …情報の全体を捉えてから、部分同士を関連付けて理解する方法

ちなみに、聴覚優位、言語優位の方は「継次処理」の方が得意で、視覚優位の方は「同時処理」の方が得意とされています。

例えば、美田園駅から宮城県総合教育センターまでの経路を覚えるときには



【memo】

- ①美田園駅を出て、ファミリーマートが見える信号の横断歩道を渡ります。
- ②ファミリーマートを左側に見て、歩道を約250m進みます。
- ③教育側入口から入ります。

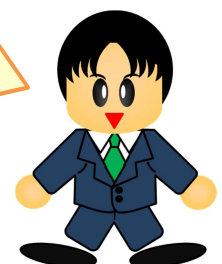
「継次処理」が得意な聴覚優位、言語優位の方は…

→ 地図だけでは経路は覚えにくく、地図と一緒にメモを見たり、読んだり、または道順を聞いたりすることで覚えられます。

「同時処理」が得意な視覚優位の方は…

→ 地図を見ることで経路が覚えられます。

先生方の認知特性や認知処理様式はどれに当てはまりますか？
私たち教師は、知らず知らずのうちに、自分の得意な認知特性や認知処理様式で授業をしていることがあります。先生方と違う認知特性や認知処理様式を持つ生徒がいることも考慮して、課題提示や板書などを工夫してみましょう。

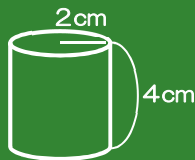


4 認知特性を意識した板書例（数学編）

（1）認知特性や授業UD，合理的配慮の視点で整理しないと

めあて

円柱の表面積の求め方を考えよう



円柱は…

円が（ 2 ）個

長方形が（ 1 ）個

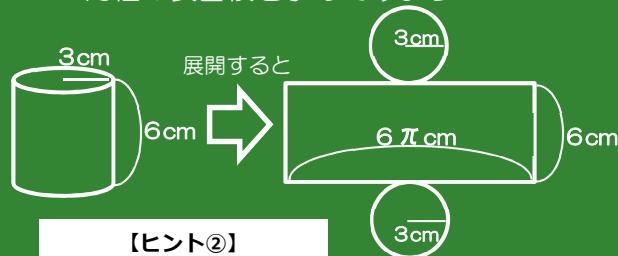
できている

【ヒント①】

円柱の表面積は…

- ・ 円の面積 = (半径)² × π を 2 個分
- ・ 円周 = 半径 × 2 × π
- ・ 長方形の面積 = 円周 × 高さ
を使うと求められる

問題 円柱の表面積を求めてみよう



【ヒント②】

- ・ 円周率 = π
- ・ 半径 = r
- ・ 円周 = 2πr
- ・ 円の面積 = πr²
- ・ 長方形の面積 = r h

まとめ

円柱の表面積の求め方

- ① 円の面積を求めて 2 倍する
- ② 円の円周を求める
- ③ 長方形の面積（円周 × 高さ）を求める
- ④ ①と②をたす



なんで円の面積 2 個分と長方形の面積が円柱の面積なの？



【ヒント①】に求め方が書いてあるから【ヒント②】は、いらぬんじゃない？



問題の展開した図に数字があるから、長方形の面積は【ヒント①】の「円周 × 高さ」じゃなくて、 $6\pi \times 6$ でよくない？

教師の説明（聴覚情報）だけでなく、図やヒントカードなどの視覚情報があった方が、より理解が深まりやすいと考えられます。

しかし、視覚情報や言語情報、すぐに答えにつながるようなヒントを与えすぎること、逆に、生徒の思考を止めてしまったり、学習意欲の低下につながったりすることがあります。

学級や生徒の実態に応じて提示の仕方（方法や量など）を工夫してみましょう。



(2) 認知特性や授業UD, 合理的配慮の視点で整理すると

【視覚情報】【同時処理】

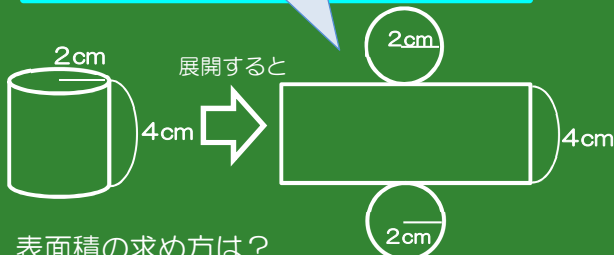
立体の構造をイメージすることが弱い生徒に必要な支援になります

【言語情報】【継次処理】

順序立てて考えることで、理解するために必要な支援になります

めあて

円柱の表面積の求め方を考えよう



表面積の求め方は？

【ヒント①】

表面積を求めるのに必要なのは？

円柱は…

円が (2) 個

長方形が (1) 個でできているから

表面積は…

円2個の面積と長方形1個の面積を求めればよい

【授業UD】

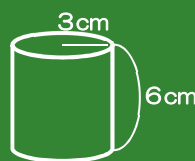
課題の焦点化

まとめ

円柱の表面積の求め方

- ① 円の面積を求めて2倍する
- ② 円周を求める
- ③ 長方形の面積(円周×高さ)を求める
- ④ ①と③をたす

問題 次の円柱の表面積を求めてみよう



【ヒント②】

- ・円周率 = π
- ・半径 = r
- ・円周 = $2\pi r$
- ・円の面積 = πr^2
- ・長方形の面積 = 円周×高さ

【合理的配慮の視点】

個別の支援が必要な生徒に配付します



【ヒントカード】を見ながら、円の面積と長方形の面積の求め方の式をつくって計算できた



まとめの後で問題を解くから、解く順番が分かりやすいし、【ヒント②】から面積を求めるのに必要な情報も見付けやすいね

【ヒントカード】

円と接する長方形の辺の長さ(赤線) = 円周の長さ(赤線)

分解して計算する

円の面積 = $(\text{半径})^2 \times \pi$

+

円周 = 半径 $\times 2 \times \pi$

長方形の面積 = 円周 \times 高さ



めあてとまとめが並んで書いてあるから、後で見直しやすい



本時のめあての達成に必要な、視覚情報や言語情報を取捨選択して提示することで、生徒の思考の流れをスムーズにすることが可能になると考えます。

板書の構造化について、各教科で統一して取り組めることについて話し合ってみることも大切ですね。

5 認知特性を意識したワークシート例（保健体育編）

(1) 認知特性や授業 UD, 合理的配慮の視点で整理しないと

心肺蘇生法を学ぼう		2年__組__番 氏名()
メンバー		
順	内容	ポイント
1	状況確認	移動が必要な場所か判断する
2	反応確認	肩をたたいて呼び掛ける
3	救助依頼 ・119 番通報 ・AED 依頼	大声で助けを求める
4	呼吸確認	10 秒以内に胸や腹の動きを見る
5	胸骨圧迫 手のひらの付け根で 30 回行う	・強く（5～6cm） ・速く（100～120/分） ・絶え間なく（中断しない）
6	人工呼吸 気道を確認し、2 回行う	口の中に出血があれば胸骨圧迫のみを行う
7	AED 使用 ・電源を入れる ・パッドを装着する	音声メッセージに従って操作する 体がぬれていれば拭き取る



なんて呼び掛けたり，助けを求めたりすればいいの？



どのへんをどうやって圧迫するんだっけ？



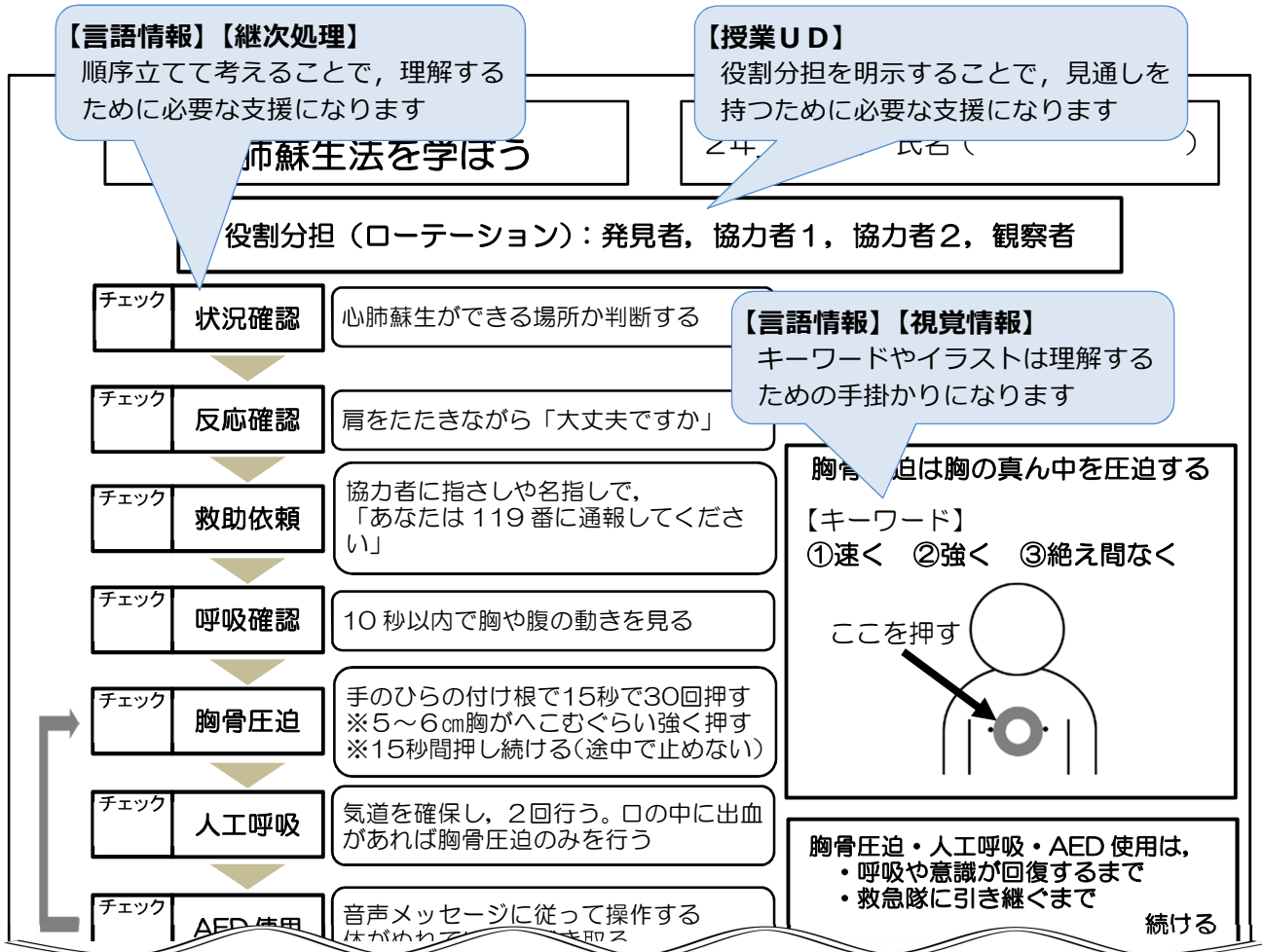
30回の圧迫を，1分間に 100～120回の速さでするってことは，1回の圧迫は何秒でするの？

実技教科の授業において，教師が示範してから生徒に取り組みせる方法はよく見られます。しかし，手順やポイントがいくつもあると，生徒は全てを覚えておくことが難しくなります。

生徒の活動を支えるワークシートはあると便利ですが，単に内容を羅列しただけでは，グループによる学び合いの効果はあまり期待できなくなってしまうです。



(2) 認知特性や授業 UD, 合理的配慮の視点で整理すると



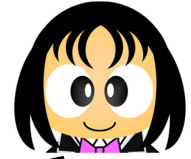
【合理的配慮の視点】
個別の支援が必要な生徒に配付します



緊急時だからこそ、相手に伝わりやすい言い方が大切だね



イラストを見れば、圧迫する位置が分かるね



15秒で30回押せばいいから、時計を見ながら回数を数えやすいね



役割分担や活動の流れを明示できれば、生徒は主体的に活動できると考えます。効果的なイラストは理解を深め、チェック(評価)欄の設定は自身の取組を振り返り、次への意欲につながるでしょう。ワークシートは授業のねらいを踏まえ、生徒の得意な学び方を生かせるような構成にしましょう。

1 学習の困難さを示す生徒の姿

- ▶該当する「困難さを示す生徒の姿」にチェックを入れる。
- ▶より多く当てはまる困難さから、具体的な配慮や支援が掲載されているページに移動する。
- ▶「困難さを示す生徒の姿」が該当しない場合は、p.11「手立ての考え方」を参考にしてください。

※障害を診断するものではありません。


※生徒の実態を詳しく把握する際は、宮城県教育委員会が作成した「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」を活用してください。

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tokusi/data3.html>)

▶「聞く」ことに困難さを示す生徒の姿

- 聞き間違いがある
- 聞きもらしがあり、頻繁に聞き返すことがある
- 言葉による指示の理解が難しい
- 話合いが難しい

p.11 へ

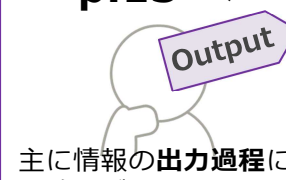


主に情報の**入力過程**に困難さがあるのかも

▶「話す」ことに困難さを示す生徒の姿

- たどたどしく話したり、早口で話したりする
- 言葉に詰まってしまう
- 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しく話したりする
- 長々と話す

p.13 へ




主に情報の**出力過程**に困難さがあるのかも

▶「読む」ことに困難さを示す生徒の姿

- 音読が遅い
- 読み間違いが多い
- 語句や行を抜かしたり、繰り返したりして読む
- 文章の要点を正しく読み取ることが難しい

p.15 へ




主に情報の**入力過程**に困難さがあるのかも

▶ 「書く」ことに困難さを示す生徒の姿

- 読みにくい字を書く
- 漢字を書くことが苦手
- 板書を写すのに時間がかかる
- 短い文章や、決まったパターンの文章しか書けない

p.17へ




主に情報の出力過程に困難さがあるのかも

▶ 「計算する・推論する」ことに困難さを示す生徒の姿

- 計算をするのにとっても時間がかかる
- 文章問題を解くのが難しい
- 図形を描くことが難しい
- 量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい

p.19へ




主に情報の処理過程に困難さがあるのかも

▶ 「不注意」に関する困難さを示す生徒の姿

- ケアレスミスが多い
- 授業中ぼんやりしている
- 時間内に行動することや時間配分が難しい
- 本来の活動でない別のことに注意が奪われやすい

p.21へ




主に情報の出力過程に困難さがあるのかも

▶ 「多動性・衝動性」に関する困難さを示す生徒の姿

- 常に体を動かしていて落ち着かない
- 過度にしゃべる
- 順番を待つのが難しい
- 他の人がしていることをじゃまする

p.23へ



主に情報の出力過程に困難さがあるのかも

▶ 「対人関係・こだわり」に関する困難さを示す生徒の姿

- 不適切な表現で発言してしまう
- グループ学習に取り組めない
- 予定の変更や状況の変化を嫌がる
- 学習のルールを守れない

p.25へ

主に情報の出力過程に困難さがあるのかも

p.25へ

主に情報の入力過程に困難さがあるのかも

2 「聞く」ことに困難さを示す生徒



手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・氷山モデルで困難さの背景要因を探る

氷山モデル「サカナの目」

見えている姿

隠れている要因

(平成29年度宮城県総合教育センター
特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
聞き間違いがある	指示や説明の内容を正しく理解できるように
聞きもらしがあり、頻繁に聞き返すことがある	集中して話が聞けるように
言葉による指示の理解が難しい	「聞く」ことの負担を減らせるように
話合いが難しい	相手の考えを理解できるように

手立てを考える

Point <学級>  ▶ 「授業UD」

Point <個別>  ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて組み合わせることも可能です

・p.12を参考に具体的な手立てを考えてみましょう

・実践後に効果が現れないときは手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

何回言われても覚えるのが苦手。忘れても周りの人に聞けなかったから、下ばかり見た。

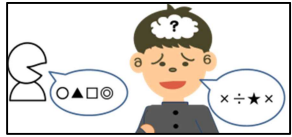


一度にあれこれ言われても分からないから質問するのに、周りから「うるさい」って言われる。分からないんだから、聞いたっていいじゃないか。

何て言われたのかよく覚えていないけど、とりあえずうなずいていればいいか。



ともまなび

「聞く」ことに困難さを示す生徒は、言葉のみの説明を理解することが苦手です。理解できないことが積み重なると消極的な姿勢として表れ、学習意欲だけでなく、人間関係の形成にまで影響を与えてしまう場合があります。日頃から、「聞く」ことに集中できる環境を整えて習慣付けることで、全ての生徒が過ごしやすい学級を目指してみましょう。

聞き間違いがある	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 大事な言葉やキーワードを聞き分けることが難しいのかも <input type="checkbox"/> 突然話題が変わると、内容が理解できないのかも <input type="checkbox"/> 最後まで話を聞かずに、途中で勝手に判断してしまうのかも
	
<学級>	<input type="checkbox"/> キーワードになる言葉を板書する <input type="checkbox"/> 教師の話の最後には生徒からの質問を受け付け、学級全体に還元する <input type="checkbox"/> 生徒同士で話したり、説明後に教師が質問したりして、内容を確認する場面を設ける
<個別>	<input type="checkbox"/> 机間指導の際、聞き間違ふことの影響が書字にも表れていないか確認する <input type="checkbox"/> 資料やワークシートは事前に配付し、授業では確かめながら聞けるようにする
聞きもらしがあり、頻繁に聞き返すことがある	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 様々な音と同じ大きさで聞こえるため、必要な情報を聞き取れないのかも <input type="checkbox"/> 自分に対して話されていると感じていないのかも <input type="checkbox"/> 聞いた内容を覚えておくことが難しいのかも
<学級>	<input type="checkbox"/> 机や椅子の脚にカバーをつけて、余計な雑音を排除する <input type="checkbox"/> 「3つ話します」「大事な話をします」など、集中できるような働き掛けをする <input type="checkbox"/> キーワードを繰り返し伝えたり、教師に続いて復唱するよう促したりする
<個別>	<input type="checkbox"/> 補足説明やヒントは付箋に書いて手渡す <input type="checkbox"/> 教科書やワークシートの読んでいる位置や、取り組んでいる課題の位置を指さす
言葉による指示の理解が難しい	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 曖昧で抽象的な表現が理解できないのかも <input type="checkbox"/> 耳からの情報だけでは覚えられないのかも <input type="checkbox"/> 複数の情報を同時に理解することが難しいのかも
	
<学級>	<input type="checkbox"/> 内容は具体的かつ簡潔に話す <input type="checkbox"/> 絵や写真などの視覚的な手掛かりに文字を添えて示す <input type="checkbox"/> 一度の指示で内容は一つとし、順序立てて伝える
<個別>	<input type="checkbox"/> 解決までに複数の工程がある場合はメモで示す <input type="checkbox"/> ICT機器で会話を視覚化するアプリケーションを活用する
話合いが難しい	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 話している人の意見に興味を持たないのかも <input type="checkbox"/> 話している人と話の内容を一致させようとするだけで精一杯なのかも <input type="checkbox"/> 次々と変わる話題についていけないのかも
	
<学級>	<input type="checkbox"/> 話合いのねらいを明確に示す <input type="checkbox"/> 友達の考えを記録できる形式のワークシートを用意し、メモする時間も確保する <input type="checkbox"/> 一度の話合いではテーマを一つにする
<個別>	<input type="checkbox"/> 互いの関係性や本人の困難さに対する理解、人数などに留意してグルーピングする <input type="checkbox"/> 話合いの流れを示した表を用意し、必要なときに自分で確認できるようにしておく

3 「話す」ことに困難さを示す生徒



手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・冰山モデルで困難さの背景要因を探る

冰山モデル「サカナの目」



(平成29年度宮城県総合教育センター 特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
たどたどしく話したり、早口で話したりする	相手に伝わる話し方ができるように
言葉に詰まってしまう	落ち着いて話すことができるように
単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しく話したりする	文脈を意識して話せるように
長々と話す	伝えたい内容を整理してから話せるように

手立てを考える

Point <学級> ▶ 「授業UD」

Point <個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて組み合わせることも可能です

・p.14を参考に具体的な手立てを考えてみましょう

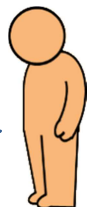
・実践後に効果が現れないときは手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

授業中、急に当てられるとドキドキしてすぐには答えられない。分かってはいるから、時間さえあれば答えられるのに。


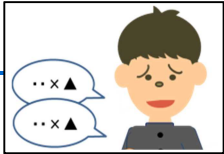

ちゃんと伝えているのに、どうして分かってくれないんだろう。

「話さなきゃ」という気持ちが強くなり、焦ってばかりいた。



ともまなび

「話す」ことに困難さを示す生徒は、自分の考えを持ちながらも、相手に伝わらないもどかしさを感じています。授業では、「発言しないから理解していない」と評価するのではなく、生徒の考えを引き出すために、どのような手立てが有効かを考えてみてください。

見えている姿		ただどしく話したり，早口で話したりする	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 自分の考えに自信が持てないのかも <input type="checkbox"/> 相手に伝えたい気持ちが強すぎるのかも <input type="checkbox"/> 皆の前だと緊張しすぎてしまうのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 話したこと自体を認めて評価し，次時の意欲につながるようにする <input type="checkbox"/> 話は途中でさえぎらず，最後まで聞く <input type="checkbox"/> 心理的な負担を軽減するために，着席したまま答えることを認める		
<個別>	<input type="checkbox"/> 特に興味・関心がある分野の話題を取り上げ，話す意欲を低下させないようにする <input type="checkbox"/> 緊張しにくい座席配置や教師との距離を配慮する		
見えている姿		言葉に詰まってしまう	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 相手の反応や正誤を気にしすぎて意見を言えないのかも <input type="checkbox"/> 自分の考えを言語化するのに時間が掛かるのかも <input type="checkbox"/> 特定の状況や場面において，適切に意思表示できないのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 選択肢を用意し，意思表示しやすい状況を設定する <input type="checkbox"/> 事前に予告をしてから指名する <input type="checkbox"/> 原因や不安になるものの解明に努め，取り除く		
<個別>	<input type="checkbox"/> 発表時は穴埋め形式のプリントを活用し，内容を読み上げるよう促す <input type="checkbox"/> 書く，指し示す，ICT 機器活用などの方法を認める		
見えている姿		単語を羅列したり，短い文で内容的に乏しく話したりする	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 頭の中で話を組み立てる力が弱いのかも <input type="checkbox"/> 伝えたい内容のキーワードに固執してしまうのかも <input type="checkbox"/> 伝える内容を覚えておくことが難しいのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 「いつ」「何を」など見出しを伝える <input type="checkbox"/> キーワードに関連するヒントを与えて，内容を引き出す <input type="checkbox"/> 前もって話す内容を書いたメモを見ながら話してよいことを伝える		
<個別>	<input type="checkbox"/> 言葉の足りない部分は教師が思いをくみ取り，補って伝える <input type="checkbox"/> 話の内容を補うために，実物や写真などを用意する		
見えている姿		長々と話す	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 話したい内容のポイントを絞って伝えることが難しいのかも <input type="checkbox"/> 伝えようとする情報量が多すぎるのかも <input type="checkbox"/> 相手の気持ちを察することが苦手で一方向的に話しているのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> あらかじめ何について話すのかを示し，考える時間も設ける <input type="checkbox"/> 時系列に順序立てて伝えるよう促す <input type="checkbox"/> 「ということは」「つまり」などの切り返しや補足の質問をする		
<個別>	<input type="checkbox"/> 最初に，伝える内容や見出し，結論などを視覚的に提示する <input type="checkbox"/> 伝えたいことをまとめるモデル文を示す		

4 「読む」ことに困難さを示す生徒



手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・冰山モデルで困難さの背景要因を探る

冰山モデル「サカナの目」

見えている姿

隠れている要因

(平成29年度宮城県総合教育センター
特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
音読が遅い	安心して音読ができるように
読み間違いが多い	間違いやすい箇所や語句を意識できるように
語句や行を抜かしたり、 繰り返したりして読む	読むべきところに集中できるように
文章の要点を正しく読み 取ることが難しい	文章の構成を理解できるように

手立てを考える

Point <学級> ▶ 「授業UD」

Point <個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて
組み合わせることも可能です

・p.16を参考に具体的な手立て
を考えてみましょう

・実践後に効果が現れないときは
手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

「黙読しましょう」って言われるけど、やり方が分からないから、一度もしたことがない。







視力検査では「異常なし」なのに、文字がゆがんだり重なり重なりして見えるときがある。疲れているからなのかな？

授業によって、ワークシートの読みやすさに違いがある。正直、読みにくいとやる気も失せる。



ともまなび

「読む」ことに困難さを示す生徒は、自らの悩みを表に出せずにいるかもしれません。「読む」ことが学習のねらいではなく、ねらいの達成に向けた一つの手立てであれば、思い切って他の方法（「聞かせる」や「見せる」など、p.2「認知特性とは」参照）を試してみてもいいのではないでしょうか。生徒にとって、主体的に学ぶ方法を身に付ける機会になるかもしれません。

音読が遅い	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 間違えて読むことの不安を感じすぎてしまうのかも <input type="checkbox"/> 言葉を一音ずつでしか捉えられないのかも <input type="checkbox"/> 文字と音を結び付けること（音韻処理）が難しいのかも
<学級> 	<input type="checkbox"/> 失敗をからかわない、笑わない雰囲気づくりに努める <input type="checkbox"/> 言葉のまとまりを囲んだり、線を引いたりする <input type="checkbox"/> 内容を理解してから取り組めるよう、最初に教師が範読する
<個別> 	<input type="checkbox"/> 内容を理解するための音読であれば無理強いせず、他生徒の音読を聞くよう指示する <input type="checkbox"/> 円陣読み、共読み、追いかけて読みなど、取り組みやすい方法を事前に提示する
読み間違いが多い	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 形が似ている文字の区別が難しいのかも <input type="checkbox"/> 内容を勝手に予測して読んでしまうのかも <input type="checkbox"/> 漢字の音読み訓読みの区別が理解できないのかも
<学級> 	<input type="checkbox"/> 間違いやすい部分に印や色を付け、意識することを促す <input type="checkbox"/> 長文も短く区切り、細部まで意識して丁寧に読むことを促す <input type="checkbox"/> 覚えるまではルビを振ってもよいことを伝える
<個別> 	<input type="checkbox"/> 読みやすい書体や文字の大きさを提示する <input type="checkbox"/> 分かち書きやスラッシュ入りなどのワークシートを用意する
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 事業を営んでいた父が 病気を克服した。 </div>	
語句や行を抜かしたり、繰り返したりして読む	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 文字がゆがんだり重なったり、独特の見え方をしているのかも <input type="checkbox"/> 文字を目で追い続けたり、文字にピントを合わせたりすることが難しいのかも <input type="checkbox"/> 文のつながりを意識していないのかも
<学級> 	<input type="checkbox"/> 行間を広げて文章を提示する <input type="checkbox"/> 着席したままで、指でなぞりながら音読する方法を認める <input type="checkbox"/> 内容を理解してから音読を促す
<個別> 	<input type="checkbox"/> 幅の異なるリーディング・スリットを数種類用意する <input type="checkbox"/> 文を全て改行しているプリントを用意する
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> てもく、しこ類は私 く優てゆてと、と学の ねしいつ担が从て校野 まくい、任幸前村の兼 し言よりの手で、先の た薬、並な発州生夢 をと無生私表学に、 働いは村にす生なそ けつな、対るのるれ </div>	
文章の要点を正しく読み取ることが難しい	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 声を出すことに精一杯で、内容まで理解できないのかも <input type="checkbox"/> 指示語や接続語の意味が分からないのかも <input type="checkbox"/> 中心となるキーワードや文を見付けられないのかも
<学級> 	<input type="checkbox"/> 読む場面よりも聞かせる場面を多く設ける <input type="checkbox"/> 指示語は具体的な言葉に変換し、接続語は矢印や記号などで表す <input type="checkbox"/> 全体像を捉えてから、細部に目を向けるようにする
<個別> 	<input type="checkbox"/> 文章の構成図や人物の関係図など、補助資料を用意する <input type="checkbox"/> ICT 機器で音声教材を活用する

5 「書く」ことに困難さを示す生徒

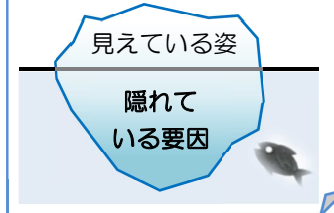


手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・冰山モデルで困難さの背景要因を探る

冰山モデル「サカナの目」



(平成29年度宮城県総合教育センター 特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
読みにくい字を書く	バランスの整った字を書けるように
漢字を書くことが苦手	正しく理解できるように
板書を写すのに時間がかかる	文字を書く負担を軽減するために
短い文章や、決まったパターンの文章しか書けない	文章構成に見通しが持てるように

手立てを考える

Point <学級> ▶ 「授業UD」

Point <個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて組み合わせることも可能です

・P18を参考に具体的な手立てを考えてみましょう

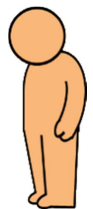
・実践後に効果が現れないときは手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

黒板を写し終わる前にいつも消される。全部書けてないから後から見ても分からない。

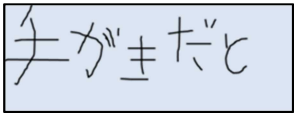
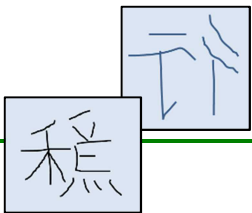
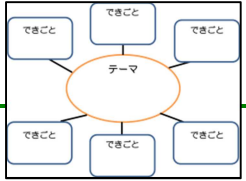
何回書いても漢字が書けなくて、「ちゃんと見て書きなさい」と言われる。見てるんだけどな。

作文ってどう書けばいいの？思ったことって言われても、うまくまとめられない。



ともまなび

「書く」ことに困難さを示す生徒が、安心して授業に参加できるよう板書を工夫してみませんか。どの教科でもノートの使い方をそろえて、「課題」「まとめ」「今日の流れ」などを示し、「図」「矢印」も効果的に取り入れてみましょう。板書内容を精選することは、思考の時間を確保し、より深い学びにもつながります。

見えている姿		読みにくい字を書く	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 文字のバランスをうまくつかめていないのかも <input type="checkbox"/> 手や腕を協調的に動かすことが難しいのかも <input type="checkbox"/> 丁寧に書く習慣が身に付いていないのかも	
<学級>	<input type="checkbox"/> 配付するプリントなどは、見やすい書体や文字の大きさに提示する <input type="checkbox"/> 多く書くことを望まず、書く内容を精選する <input type="checkbox"/> 早く書くことが良いことではないことを伝え、書く時間を設定し示す		
<個別>	<input type="checkbox"/> 文字を書く姿勢と字を書いている手の位置、筆記用具の使いやすさなどを確認する <input type="checkbox"/> 本人にとって使いやすいノート、用紙、枠、マス、罫線などを用意する		
見えている姿		漢字を書くことが苦手	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 漢字の形や左右を正しく把握して記憶することが難しいのかも <input type="checkbox"/> 漢字の細部を曖昧に記憶しているのかも <input type="checkbox"/> 似た漢字と混同して正しい漢字が書けないのかも	
<学級>	<input type="checkbox"/> 新出漢字や複雑な漢字は、黒板の隅に大きく表記して理解を促す <input type="checkbox"/> 漢字の構成や筆順を言語化して理解を促す <input type="checkbox"/> 似ている漢字との違いや意味などを伝え理解を促す		
<個別>	<input type="checkbox"/> 板書を写している時間などを利用して、正しく書けているか確認し言葉掛けをする <input type="checkbox"/> 点や線の数など、間違いやすい部分や意識してほしい点をまとめたプリントを用意する		
見えている姿		板書を写すのに時間がかかる	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 短期記憶が弱く、書かれていることを覚えていられないのかも <input type="checkbox"/> 黒板とノートを何度も見ているうちに、他のことに注意が奪われるのかも <input type="checkbox"/> 話を聞きながら、板書を写すことが難しいのかも	
<学級>	<input type="checkbox"/> 板書の補助プリントやワークシートを活用する <input type="checkbox"/> 黒板まわりの刺激を少なくし、集中しやすい環境を整える <input type="checkbox"/> 板書中の指示は控え、板書を写す時間を確保するとともに板書内容を精選する		
<個別>	<input type="checkbox"/> 板書の見本をプリントし、ノートの横に置いて写せるようにする <input type="checkbox"/> ICT機器を活用して、ノートをまとめることを認める		
見えている姿		短い文章や、決まったパターンの文章しか書けない	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 何について書くのか理解できていないのかも <input type="checkbox"/> 書きたいことをうまく整理できないのかも <input type="checkbox"/> 語彙が少ないのかも	
<学級>	<input type="checkbox"/> キーワードを抽出できるよう、テーマの写真や資料を準備する <input type="checkbox"/> 書きたいことを箇条書きできるプリントを用意する <input type="checkbox"/> 気持ちを表現する言葉や比喻表現など、活用できそうな言葉や文例を提示する		
<個別>	<input type="checkbox"/> 5W1H 質問形式や、マインドマップワークシートなどを用意する <input type="checkbox"/> 思い付く文章を音声入力してまとめられるよう、ICT機器を用意する		

6 「計算する・推論する」ことに困難さを示す生徒

$$2(a+3) = 2a+6 ?$$

手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・冰山モデルで困難さの背景要因を探る

冰山モデル「サカナの目」

見えている姿

隠れている要因

(平成29年度宮城県総合教育センター特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
計算をするのにとっても時間がかかる	計算手順を理解して活用できるように
文章問題を解くのが難しい	何を求められているのか理解できるように
図形を描くことが難しい	特徴を捉えることができるように
量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい	量の感覚が身に付くように

手立てを考える

Point <学級> ▶ 「授業UD」

Point <個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて組み合わせることも可能です

・p.20を参考に具体的な手立てを考えてみましょう

・実践後に効果が現れないときは手立てを見直すことも大切です

◆ 生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

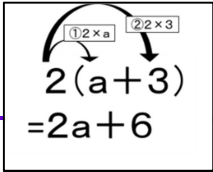

小学生の頃は、「計算がちょっと苦手かな」って思う程度だったのに、今は全く分からない。

「頭の中で考えて」って言われるけど、何をどう考えればいいの？イメージなんてできない。

努力しても全然点数がとれない。定期テストではまた数学はあきらめるしかないのかな。

ともまなび

「計算する・推論する」ことに困難さを示す生徒は、特定の授業だけではなく、生活のあらゆる場面で苦しさを感じているはず。ICT機器は生徒の困難さを補完し、学習を効率よく進める手立てとして非常にメリットがあると言えます。ICT機器を活用し、五感に働き掛ける提示をすることで、生徒の理解を深める工夫をしましょう。

計算をするのにとっても時間がかかる	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 数や記号を一目で判断できないのかも <input type="checkbox"/> 計算のルールや手順が身に付いていないのかも <input type="checkbox"/> 計算途中の数字を一時的に覚えておくことが苦手なのかも
<学級>	<input type="checkbox"/> 式を読み上げてから取り組ませる <input type="checkbox"/> 計算部分に下線を引いたり、計算順序を丸数字で示したりする <input type="checkbox"/> 途中式は全て記入し、間違った場合でも振り返ることができるようにする
<個別>	<input type="checkbox"/> 計算手順とポイントをまとめたワークシートを用意する <input type="checkbox"/> 計算が答えを導く手段の場合、計算の遅さを補う意味で電卓の使用を認める
	
文章問題を解くのが難しい	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 文章を読むこと自体が難しいのかも <input type="checkbox"/> 文章の内容を想像することが苦手なのかも <input type="checkbox"/> 何を求める文章なのかが分からないのかも
<学級>	<input type="checkbox"/> 問題文を理解するための補助として、絵で表す <input type="checkbox"/> 文章は普段の生活に関連した内容にする <input type="checkbox"/> キーワードとなる言葉や数字に印を付ける
<個別>	<input type="checkbox"/> 問題文は初見にならないよう、事前に配付する <input type="checkbox"/> 抵抗感をなくせるよう、小数やルートなどの数値は整数に置き換えて提示する
	
図形を描くことが難しい	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 図形の特徴を覚えることが苦手なのかも <input type="checkbox"/> 面や辺の位置関係を把握することが難しいのかも <input type="checkbox"/> その場にはないものをイメージすることができないのかも
<学級>	<input type="checkbox"/> 頂点の数や角度など、特徴的な部分に着目するよう伝える <input type="checkbox"/> 面や辺を色分けして、捉えやすくする <input type="checkbox"/> 立体模型を示すだけでなく、言語情報を加えて特徴を説明する
<個別>	<input type="checkbox"/> 実際に立体模型や展開図を用意し、触って確認できるようにする <input type="checkbox"/> ICT機器を活用し、三次元で表した立体図形を回転させたり展開させたりする
量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい	
見えている姿	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 単位が何を表すのかが分からないのかも <input type="checkbox"/> 数字と単位から、おおよその量を推測できないのかも <input type="checkbox"/> 単位の換算が理解できないのかも
<学級>	<input type="checkbox"/> 身近にあるものに例えて説明する <input type="checkbox"/> 図やイラスト、グラフなどを用いて視覚的に示す <input type="checkbox"/> 単位一覧表や換算表を用意し、問題を解く際のヒントとして使用することを認める
<個別>	<input type="checkbox"/> 量感をつかむことができるよう、具体物や半具体物を用意する <input type="checkbox"/> ICT機器を活用し、アニメーションで量の違いや変化の様子を表す

7 「不注意」に関する困難さを示す生徒



手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・冰山モデルで困難さの背景要因を探る

冰山モデル「サカナの目」

見えている姿

隠れている要因

(平成29年度宮城県総合教育センター
特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
ケアレスミスが多い	大事なことに注意が向き、見直しも身に付くように
授業中ぼんやりしている	何に集中すべきか理解して取り組めるように
時間内に行動することや時間配分が難しい	学習課題を順序立てて取り組めるように
本来の活動でない別のことに注意が奪われやすい	取り組むべき活動に集中できるように

手立てを考える

Point <学級> ▶ 「授業UD」

Point <個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて組み合わせることも可能です

・p.22を参考に具体的な手立てを考えてみましょう

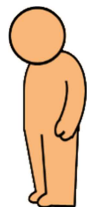
・実践後に効果が現れないときは手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

人と話しているとき、急に相手の髪型とかが気になって話の内容が分からなくなる。「聞いているの？」って言われるたびに、ドキッとする。

みんなが先生に言われたとおりにてきぱきと行動しているのを見て、「何であんなふうに見えるの？」って思う。

忘れ物をして注意されたときは、「次は絶対忘れない！」って思うのに、次の日も同じものを忘れちゃう。



ともまなび

「不注意」に関する困難さを示す生徒に対し、反省を促したり、叱責を繰り返したりしても効果はないと言われています。理由はワーキングメモリー（作業記憶）の弱さが原因の一つであると考えられているためです。生徒の自己肯定感を高めるためには、プラスの側面を評価したり、ミスを挽回できるチャンスをつくったりしましょう。

見えている姿		ケアレスミスが多い	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> あまり深く考えず、思いついたまま行動してしまうのかも <input type="checkbox"/> 注意するポイントを意識し続けることが難しいのかも <input type="checkbox"/> 確認方法が身に付いていなかったり、足りなかったりするのかも	
<学級>		<input type="checkbox"/> ささいなことでも正しい行動を認め、タイミング良く褒める <input type="checkbox"/> 板書では、チョークの色遣いを工夫して注意を促す <input type="checkbox"/> 定期考査や小テストでは、見直しの実施を促す	
<個別>		<input type="checkbox"/> 場面に合わせたチェックリストを用意し、活動を振り返りやすくする <input type="checkbox"/> メモすることを促し、書きぶりを確認する	
見えている姿		授業中ぼんやりしている	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 何にどのように集中したらよいか、分からないのかも <input type="checkbox"/> 活動時間が長すぎるのかも <input type="checkbox"/> 教師の話を中心とした一斉指導の形態が合っていないのかも	
<学級>		<input type="checkbox"/> 言葉の指示に合わせて指示棒やポインターを活用する <input type="checkbox"/> 学習方法を見直し、単調な活動の繰り返しを避ける <input type="checkbox"/> 生徒同士で内容を確認したり、意見を交換したりする場面を設ける	
<個別>		<input type="checkbox"/> 机間指導で言葉を掛けながら、活動に注意を促す <input type="checkbox"/> 課題は小出しにする	
見えている姿		時間内に行動することや時間配分が難しい	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 目標達成や活動の終わりをイメージしにくいのかも <input type="checkbox"/> 優先順位を把握することが難しいのかも <input type="checkbox"/> 複数の課題を同時にこなすことが苦手なのかも	
<学級>		<input type="checkbox"/> 学習課題や結論を先に提示する <input type="checkbox"/> 活動に取り組む順序を表示する <input type="checkbox"/> 課題を終えたのを確認してから、次の課題について指示を伝える	
<個別>		<input type="checkbox"/> タイマーで残り時間を表示する <input type="checkbox"/> あらかじめ課題量を調整して提示する	
見えている姿		本来の活動でない別のことに注意が奪われやすい	
見えている姿	隠れている要因	<input type="checkbox"/> 掲示物や人、状況など、周囲からの刺激に気がそれやすいのかも <input type="checkbox"/> 時間が経つことで、活動の意味や目的を忘れてしまうのかも <input type="checkbox"/> 次々と興味・関心が移ってしまうのかも	
<学級>		<input type="checkbox"/> 黒板周辺の掲示物や棚をカーテン等で隠して刺激を取り除く <input type="checkbox"/> 必要な場面で内容を振り返るための発問をする <input type="checkbox"/> 注目を促してから話し始める	
<個別>		<input type="checkbox"/> 具体物を提示したり、体験的な活動を取り入れたりする <input type="checkbox"/> 座席を教師の近くや、窓側を避けるなど、集中しやすいように配慮する	

8 「多動性・衝動性」に関する困難さを示す生徒

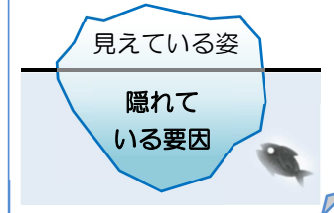


手立ての考え方

背景要因を探る

Point ・冰山モデルで困難さの背景要因を探る

冰山モデル「サカナの目」



(平成29年度宮城県総合教育センター特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point ・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
常に体を動かしていて落ち着かない	短時間でも集中して学習に取り組めるように
過度にしゃべる	発言する際のルールを理解できるように
順番を待つのが難しい	順番を待つ意味や目的を理解できるように
他の人がしていることをじゃまする	適切に関わることができるように

手立てを考える

Point <学級> ▶ 「授業UD」

Point <個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて組み合わせることも可能です

・p.24を参考に具体的な手立てを考えてみましょう

・実践後に効果が現れないときは手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ることも大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

おとなしくできないし、すぐに怒ってけんかしちゃう。分かっているけど止められない。









いつもしゃべった直後に、「まずい！」って気付く。同じ失敗を何度も繰り返すから、自分が嫌になる。

壁や物を蹴っていたけど、特に理由はない。でもそれじゃ格好悪いから、イライラしているふりをしていた。



ともまなび

「多動性・衝動性」に関する困難さを示す生徒は、場面によっては優れた発想力・行動力を発揮します。授業や学校行事において、本人の強みを生かせるような役割を任せてみてはいかがでしょうか。自己肯定感が高まるだけでなく、周囲から評価を得ることで、お互いに良好な関係を築くきっかけにもつながるでしょう。

<p>見えている姿</p>	常に体を動かしていて落ち着かない	
<p>隠れている要因</p>	<p><input type="checkbox"/>何か不安に感じていることがあるのかも</p> <p><input type="checkbox"/>姿勢の保持が苦手なのかも</p> <p><input type="checkbox"/>無意識に体を動かすことで、実は気持ちを落ち着かせているのかも</p>	
<p><学級></p> 	<p><input type="checkbox"/>できる範囲で不安の原因となるものを取り除く</p> <p><input type="checkbox"/>話を聞かせるときは正しい姿勢を促してから始める</p> <p><input type="checkbox"/>着席し続けることを避け、動作を取り入れた授業展開を心掛ける</p>	
<p><個別></p> 	<p><input type="checkbox"/>周囲から目立たない形で、気持ちを落ち着かせるための道具の使用を認める</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシートの配付等、その場から動いても周囲に認められる役割を指示する</p>	
<p>見えている姿</p>	過度にしゃべる	
<p>隠れている要因</p>	<p><input type="checkbox"/>話したい気持ちをコントロールするのが難しいのかも</p> <p><input type="checkbox"/>場の状況や雰囲気理解できないのかも</p> <p><input type="checkbox"/>相手に伝わらないと思込み、つい声が大きくなってしまうのかも</p>	
<p><学級></p> 	<p><input type="checkbox"/>挙手をし、指名されてから発言するルールを徹底する</p> <p><input type="checkbox"/>何に取り組む時間であるか分かるように黒板に表示し、注意を促す</p> <p><input type="checkbox"/>状況に応じた声量を意識できるよう、「声の大きさ表」を掲示する</p>	
<p><個別></p> 	<p><input type="checkbox"/>自分の考えはノートに記入してから読み上げるよう促す</p> <p><input type="checkbox"/>授業者がさりげなく言葉掛けできるよう、座席を前方に配置する</p>	
<p>見えている姿</p>	順番を待つのが難しい	
<p>隠れている要因</p>	<p><input type="checkbox"/>自分の行動を抑えることができないのかも</p> <p><input type="checkbox"/>目的にばかり気を取られ、順番に対する意識が薄れているのかも</p> <p><input type="checkbox"/>待つことへの見通しが持てずにいるのかも</p>	
<p><学級></p> 	<p><input type="checkbox"/>順番で取り組む理由やルールを説明する</p> <p><input type="checkbox"/>視覚に訴える方法で順番を表示し、いつでも確認できる状態にする</p> <p><input type="checkbox"/>時間や人数など、待つことに対する目安を具体的に伝える</p>	
<p><個別></p> 	<p><input type="checkbox"/>待ち時間が短くなるよう、順番に配慮する</p> <p><input type="checkbox"/>待ち時間の過ごし方が書かれてある個別のスケジュール表を用意する</p>	
<p>見えている姿</p>	他の人がしていることをじゃまする	
<p>隠れている要因</p>	<p><input type="checkbox"/>自分の気持ちを抑えることが難しいのかも</p> <p><input type="checkbox"/>相手がどう思うか、その場で判断することが難しいのかも</p> <p><input type="checkbox"/>課題に対して「できる」見通しが持てないのかも</p>	
<p><学級></p> 	<p><input type="checkbox"/>深呼吸やストレッチをして、気持ちをリラックスするよう促す</p> <p><input type="checkbox"/>授業中の言動に関するルールを掲示する</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決までのプロセスをスモールステップで提示する</p>	
<p><個別></p> 	<p><input type="checkbox"/>授業に集中できるよう、座席を前方にしたり、前後左右の座席間隔を離したりする</p> <p><input type="checkbox"/>気持ちを言語化・文章化することで、一呼吸おいて考えさせる時間を作る</p>	



9 「対人関係・こだわり」に関する困難さを示す生徒



手立ての考え方

背景要因を探る

Point

・氷山モデルで困難さの背景要因を探る

氷山モデル「サカナの目」

見えている姿

隠れている要因

(平成29年度宮城県総合教育センター
特別支援教育研究グループ成果物より)

困難さに対する指導上の工夫の意図を明確にする

Point

・教師がねらいや根拠を持つ

困難さ	指導上の工夫の意図の例
不適切な表現で発言してしまう	良好な関係を築けるように
グループ学習に取り組めない	相手と関わりながら学ぶために
予定の変更や状況の変化を嫌がる	見通しを持って行動するために
学習のルールを守れない	ルールを正しく理解するために

手立てを考える

Point

<学級> ▶ 「授業UD」

Point

<個別> ▶ 「合理的配慮」の視点

・学級や生徒の実態に合わせて
組み合わせることも可能です

・p.26を参考に具体的な手立て
を考えてみましょう

・実践後に効果が現れないときは
手立てを見直すことも大切です

◆生徒自身の思いやできない理由を知ること大切です。生徒の声に耳を傾けてみませんか？

「頑張り」って励まされるより、具体的な指示がほしかった。

自分は周りの人よりできないことが多いけど、先生に認めてもらったときはうれしかった。

よく友達とけんかして孤立しちゃうけど、どうすればいいのか、何がいけないのかが分からない。



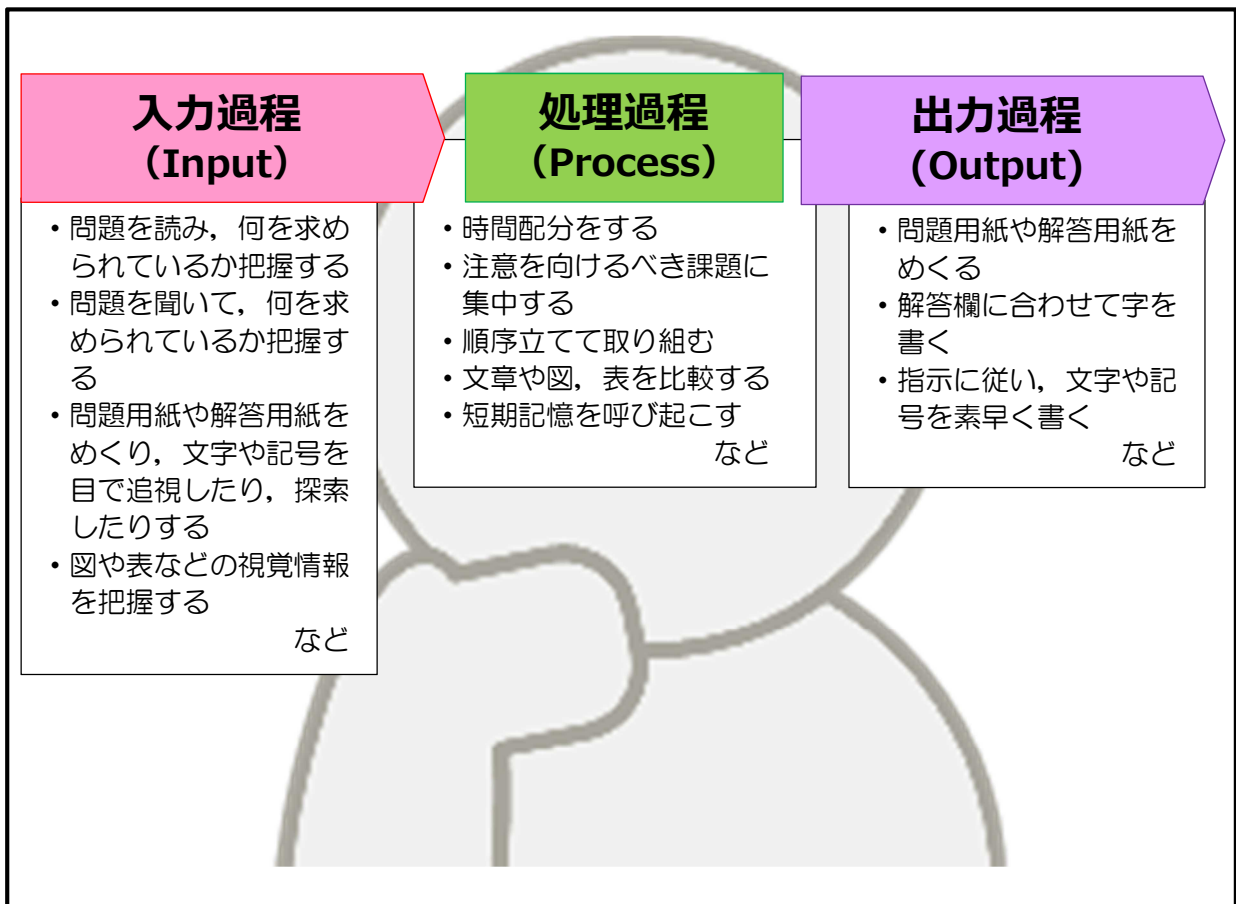
ともまなび

「対人関係・こだわり」に関する困難さを示す生徒への指導場面において、「〇〇しません」と否定的な言葉を使ってしまうことはありませんか。とっさの場面でも一呼吸置いて、肯定的な表現で望ましい行動を具体的に伝えるといいですよ。そして、生徒が「次こそは気を付けよう」と自主的に意識できるよう導きましょう。

見えている姿		不適切な表現で発言してしまう	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 語彙が乏しく、自分の思いや考えに合った言葉を知らないのかも <input type="checkbox"/> 状況理解の弱さが空気の読めない不適切な発言につながっているのかも <input type="checkbox"/> 適切な言動が分からないのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 例を挙げながら適切で前向きな表現を提示する <input type="checkbox"/> どのような雰囲気や状況であるかを言語化して伝えておく <input type="checkbox"/> 望ましい表現をまとめた一覧表を掲示し、意識できる状況にしておく		
<個別>	<input type="checkbox"/> 発言することをあらかじめ記入させ、教師が確認した後に発言を促す <input type="checkbox"/> カード等を見せて、望ましい言い回しを示す		
見えている姿		グループ学習に取り組めない	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> グループ活動に対する関心が薄いのかも <input type="checkbox"/> 周囲とどのように関わったらいいかが分からないのかも <input type="checkbox"/> 複数の人の存在や話し声に対し、過度なストレスを感じてしまうのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 活動場所やメンバー、活動内容などを表示する <input type="checkbox"/> 一人一役制にし、グループでの役割分担を明確にする <input type="checkbox"/> 無理のない範囲で活動できるよう、少人数でのグループ編成にする		
<個別>	<input type="checkbox"/> 周囲の活動の様子を見学させてから、グループに加わるよう促す <input type="checkbox"/> グループのメンバーに配慮する		
見えている姿		予定の変更や状況の変化を嫌がる	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> 見通しを立てるのが苦手なのかも <input type="checkbox"/> いつもどおり、予定どおりに進まない不安になり受け入れられないのかも <input type="checkbox"/> 方法や手順に強いこだわりを持っているのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 授業のめあてや活動の流れは最初に提示し、見通しが持てるようにする <input type="checkbox"/> なるべく早い段階で変更や変化を伝える <input type="checkbox"/> 変更内容や理由、とるべき行動などを伝える		
<個別>	<input type="checkbox"/> 気持ちの安定を図り、口頭での説明だけでなく視覚情報で提示する <input type="checkbox"/> 不安が強すぎる時には、変化後の行動を本人と確認する		
見えている姿		学習のルールを守れない	
隠れている要因	<input type="checkbox"/> ルールに意識が向かないのかも <input type="checkbox"/> 曖昧な暗黙のルールが分からないのかも <input type="checkbox"/> 人の関心を引こうとしているのかも		
<学級>	<input type="checkbox"/> 言葉だけではなく、視覚的な情報を掲示する <input type="checkbox"/> ルールを明文化し、暗黙のルールを作らないようにする <input type="checkbox"/> 関心を引くための不適切な言動は取り合わないようにし、良い言動をしたときに褒める		
<個別>	<input type="checkbox"/> いつでも確認できるよう、授業で守るルール一覧表を用意する <input type="checkbox"/> 肯定的な表現でどのようにしたらよいかを伝え、ルールが守れたら褒める		

1 ワークシートや定期考査に取り組むときの情報処理過程

生徒がワークシートや定期考査，小テストなどに取り組む際には，同時に複数の情報処理を行うことが求められます。発達障害の特性を有する生徒は，3つのいずれかの過程で困難さを抱えていると考えられるので，授業だけでなく，ワークシートや定期考査，小テストなどでも困難さを取り除く配慮や支援を行い，公正で妥当性のある評価をしていくことが望ましいと考えます。



※図は情報処理過程のイメージです

発達障害の特性が結果に影響しにくくなるように，それぞれの情報処理過程で生じる困難さを軽減する配慮をして，問題用紙や解答用紙を作成しましょう。

ポイントは

- ・ 入力過程の配慮 = 見やすい
- ・ 処理過程の配慮 = 取り組みやすい
- ・ 出力過程の配慮 = 書きやすい

になります。



2 ワークシートや問題，解答の作成と採点の配慮

(1) 作成時の配慮の例

入力過程（見やすい）	処理過程（取り組みやすい）	出力過程（書きやすい）
<ul style="list-style-type: none"> 見やすい書体や文字の大きさにする ルビを振るときは，行間を空ける，必要な部分にだけルビを振る 行間を十分に空ける 図や表と問題の位置がどの大問でも同じレイアウトになるようにする ポイントになる部分（当てはまるもの，当てはまらないもの）を太字や波線などで強調する 	<ul style="list-style-type: none"> 表紙（最初）に注意事項が書いてある 問題用紙にページ番号を入れる 問題用紙も解答用紙も，A4やA3で作成する 問題用紙のページをめくらなくても解ける（大問がページをまたがない） 選択肢の記号や番号に一貫性がある メモができるように意図的に余白を設ける 問題用紙を冊子にする 	<ul style="list-style-type: none"> 解答欄が大きい（広い） 問題用紙と解答用紙を分けずに，問題文の下や横に解答欄を設ける 解答用紙は大問ごとに区切る，外枠を太線にする 数学や理科など，計算を伴う問題は，解答用紙に計算欄も入れる 解答欄を観点別で色分けするなどの装飾をしない

その他

- 各教科で共通して取り組めることは統一して行う（書体，文字の大きさ，問題用紙や解答用紙の大きさなど）
- 問題を作成したら，実際に解いてみる（解答時間の確認）

(2) 採点時の配慮の例

- 漢字の書き取りや文中から抜き出して書く問題でなければ，漢字を平仮名で書いていても正解にする
- 漢字の「とめ」「はね」「はらい」を厳密に要求しない
- 計算問題等で途中計算が合っていれば，部分点を付ける
- 単位がなくても（cmなどが上手に書けていなくても）誤答としない

ワークシートや定期考査，小テストを作成していると，用紙の削減や採点のしやすさなどを考えてしまいますよね。

でも，実際にワークシートに記入したり，定期考査や小テストに解答したりするのは生徒です。

生徒の目線で，見やすい，取り組みやすい，書きやすい問題用紙や解答用紙になっているか，確認してみましょう。



(3) 配慮して作成した定期考査の例

① 問題用紙

【入力過程（見やすい）の配慮】
・大問をゴシック体，問題文を明朝体にする

【入力過程（見やすい）の配慮】
・行間を空けてルビを読みやすくする

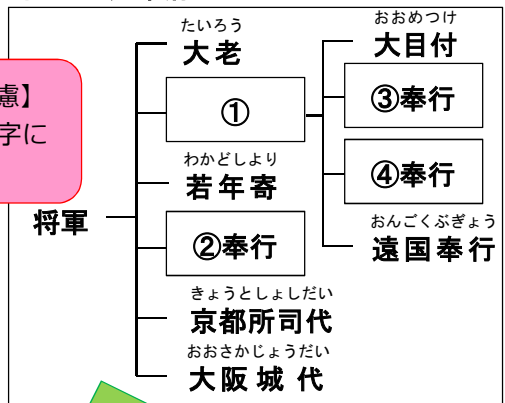
第1問 資料を見て，各問に答えなさい

(1) 次の①～④の文章は，右の図の江戸幕府のしくみの①～④の役職

①～④のあてはまる役職

- ①：将軍の下で実際の政治運営を行う最高職
- ②：江戸の町政を行う奉行
- ③：幕府の財政や幕領の監督を行う奉行
- ④：寺や神社を取りしめる奉行

図 江戸幕府のしくみ



【入力過程（見やすい）の配慮】
・ポイントになる部分を太字にして強調する

【入力過程（見やすい）の配慮】
・1度ルビを振った単語にはルビを振らない

【処理過程（取り組みやすい）の配慮】
・問題文と区別するため，図の書体をゴシック体にしたり，図を囲んだりしている

② 解答用紙

第2学期期末考査 解答用紙 2年 ___組 ___番 氏名 ()

第1問	(1)①	②	奉行	奉行
	④	奉行		
	(2)		(4)	

【処理過程（取り組みやすい）の配慮】
・解答用紙の上部に氏名欄を配置して，最初に記入させる

【入力過程（見やすい）の配慮】
・不必要な解答欄に斜線を入れて，記入しないことを示す

【出力過程（書きやすい）の配慮】
・大問と大問の解答欄を空け，書き間違いを防ぐ

第2問	(1)		
	(2)		②

【出力過程（書きやすい）の配慮】
・解答欄を大きくして，字を記入しやすくする

3 個別の配慮や支援の例

問題用紙や解答用紙の作成で配慮を行っても、通常の学級の授業で、資料の拡大や代読、ICT機器での入力、途中退席など、合理的配慮の視点で配慮や支援を行っている生徒については、定期考査でも同様の配慮や支援が必要になると考えます。

(1) ワークシートや問題用紙，解答用紙の配慮や支援の例

- 問題用紙や解答用紙を拡大する
- 記入欄や解答欄にマス目を付ける
- 問題用紙に解答を直接記入することを認める

(2) 定期考査や小テストを受ける際の配慮や支援の例

◀同室受験で可能な配慮や支援▶

- 座席を教卓前やスピーカーの近くにする
- 拡大鏡やスリットなどの用具の使用を認める
- PCやタブレット端末での打ち込みを認める

◀別室受験で可能な配慮や支援▶

- 問題文を代読する
- 落ち着いて受験できるように間仕切りで小スペースをつくる
- 途中で休憩を入れる
- 試験時間を延長*する

*大学入試センター試験では、発達障害のある生徒に試験時間を1.3倍にする配慮が認められる場合もあります

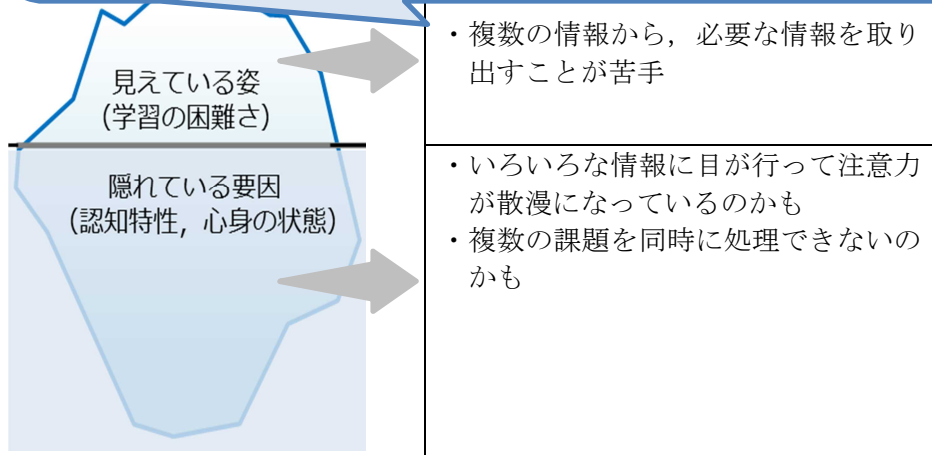
ワークシートや定期考査，小テストでの配慮や支援は，内容や問題を簡単にするという変更ではなく，生徒の教育的ニーズに合わせて適切な調整を行うことです。

ワークシートの作成と定期考査の問題や解答用紙の作成と採点は授業UDの視点，個別の配慮や支援は合理的配慮の視点で考えましょう。



【学級担任や学年所属の教師，特別支援教育コーディネーターなど，複数の教師で検討して記入します】

普段の授業の様子や「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」などで確認した生徒の学習の困難さや背景要因について検討し，記入します。背景要因を検討することで，生徒の優位な認知特性（強み）を見付けることもできます。



【全教科で共通して行う配慮や支援の具体的な手立て】

- ・定期考査の問題用紙はA3に拡大して配付する
- ・学習課題を取り組んでいるときに全教科持ち歩く
- ・課題

【学級担任や学年所属の教師，特別支援教育コーディネーターなどで検討して記入します】

生徒の学習の困難さや背景要因から，全教科で共通して行う配慮や支援について学年で検討し，記入します。特に定期考査や授業内の小テストなど，評価に関する配慮や支援は確実に検討し，記入するようにしてください。

また，小学校での配慮や支援の内容がある場合は記入するようにしてください。

【小学校で

- ・座席
- ・1回の指示に1つの内容で伝えるようにしている
- ・戸棚の窓にラシャ紙を貼って中を見えなくする

既に個別の指導計画の様式がある場合は，個別の指導計画作成時に，「個別の配慮・支援シート」で参考になりそうな項目を活用してください。

【1学期】

教科	担当者			
国語				
社会		○主な地図記号を覚えることができる ▲地形図の中の地図記号を見付けることができない	課題の解決に必要な地図記号をあらかじめ赤ペンで囲んだ状態の地形図を配付する	△資料を拡大して渡す
数学		○簡単な計算はできる ▲文字式や方程式など移項を伴う計算ができない	移項を伴う計算をする際には，矢印や必要な言葉を添えた例題を準備する	◎関数でも同じようにする
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家		○いちょう切りや千切りなど調理の技能は身に付いている ▲調理の手順が分からない	調理の手順を書いたプリントに写真も加えて視覚化，スモールステップ化する	◎裁縫の実習でも同様にする
英語				

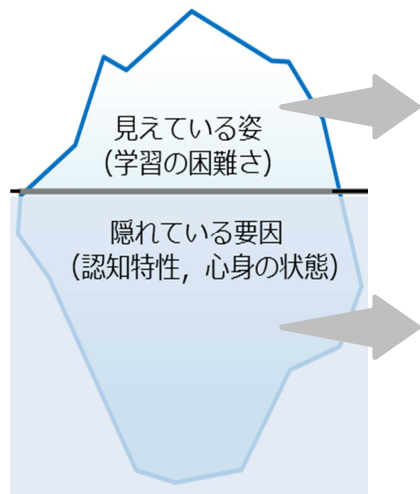
【教科担任や特別支援教育コーディネーターが授業の様子を観察し，必要に応じて記入します】

全ての教科で記入するのではなく，指導内容や指導方法に配慮や支援が必要な教科について記入します。

最初は支援が必要ないと感じた教科でも，学期途中や2学期になってから配慮や支援が必要となれば，記入するようにしてください。

年 組 生徒氏名：	担任：
-----------	-----

【生徒の学習の困難さと背景要因】



<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
---	---

【全教科で共通して行う配慮や支援の具体的な手立て】

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
---	---

【小学校で行っていた配慮や支援, 引継ぎ事項など】

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
---	---

【1学期】

教科	担当者	授業での実態	実施する配慮や支援の具体的な手立て	手立ての有効性
		【できている : ○】 【できていない : ▲】		◎・△
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家				
英語				

㊟個別の配慮・支援シート

No. () 作成年月日： 年 月 日

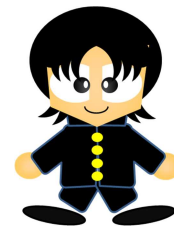
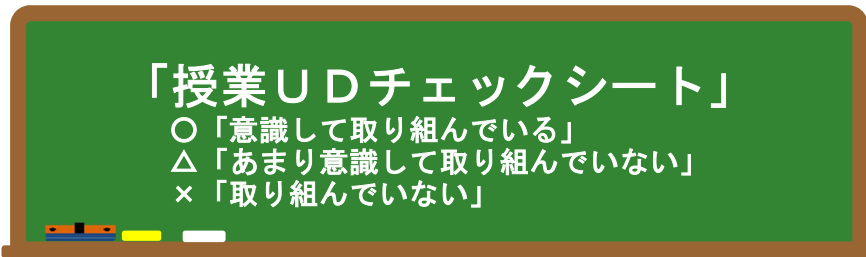
【2学期】

教科	担当者	授業での実態 【できている : ○】 【できていない : ▲】	実施する配慮や支援の 具体的な手立て	手立ての 有効性 ◎・△
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家				
英語				

【3学期】

教科	担当者	授業での実態 【できている : ○】 【できていない : ▲】	実施する配慮や支援の 具体的な手立て	手立ての 有効性 ◎・△
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家				
英語				

＜実践活用シート＞ 個別の配慮・支援シート



	チェックポイント	チェック欄
授業を支える環境づくり	互いに認め合える集団づくりを行っている 例：みやぎアドベンチャープログラム、構成的グループエンカウンター、ブレンストーミングなどの手法	
	温かい言語環境で人権が尊重される集団づくりを行っている	
	黒板やその周辺には、ポスターやお便りなどを貼らず、授業に関わる情報を必要に応じて掲示している	
	共有で使う物の置き方や場所を決めている	
	活動の手順や役割分担を提示するなど、見通しが持てる工夫をしている	
	学級のルールや話合いの手順を具体的に決めている	
授業をつくる視点（障壁を取り除く工夫）	本時のねらいや活動を絞り、生徒に聴覚情報と視覚情報で伝えている (p.2「認知特性とは」参照)	
	指示をする際に、注目を促してから指示をしている	
	1回の指示で一つの内容を伝えている	
	「これ」「それ」「あれ」「どれ」などの抽象的な表現を避け、具体的に指示している	
	授業の最後に学習した内容を整理し確認している	
	生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」などの肯定的な言葉掛けをしている	
	絵や図などの視覚的な手掛かりを用意している	
	板書の文字（大きさ）、チョークの色、配置などを工夫している	
	言葉で説明するだけでなく、図示する、演じるなどの方法を用いて、理解を促す工夫をしている	
	ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている	
	課題解決までのプロセスに細やかな段階がある (p.4「認知処理様式とは」参照)	
教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどについて、復習する機会を設けている		
学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている		

※ 自分の授業を振り返ったり、先生同士で協議したりする際に活用してください

1 インクルーシブ教育システム構築に向けて

我が国は、平成 26 年 1 月「障害者の権利に関する条約」を批准し、「共生社会の形成」を最も積極的に取り組むべき重要な課題としています。

さらに、文部科学省は「共生社会の形成」に向けた方策の一つとして、「インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」を掲げています。

「共生社会」

これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害のある人が、積極的に参加・貢献していくことができる社会をいいます。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える「全員参加型の社会」とも言えます。



インクルーシブ教育システムの構築に関連する法令等

■ 障害者の権利に関する条約に署名（平成 19 年 9 月）

第 24 条（教育部分）

締結国は、教育についての障害者の権利を認める。（中略）障害者を包容するあらゆる段階の教育制度（inclusive education system）及び生涯学習を確保する。

・ 障害者基本法の一部改正（平成 23 年 8 月）

第 16 条（教育部分）

障害者が（中略）十分な教育が受けられるようにするために、可能な限り障害者である児童及び生徒が障害者でない児童及び生徒と共に教育を受けられるよう配慮しつつ、（中略）必要な施策を講じなければならない。

・ 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の成立（平成 25 年 6 月）

1. 不当な差別的取り扱いの禁止
2. 合理的配慮の不提供の禁止

・ 学校教育法施行令の一部改正（平成 25 年 8 月）

障害のある児童生徒の就学に関する事項の改正

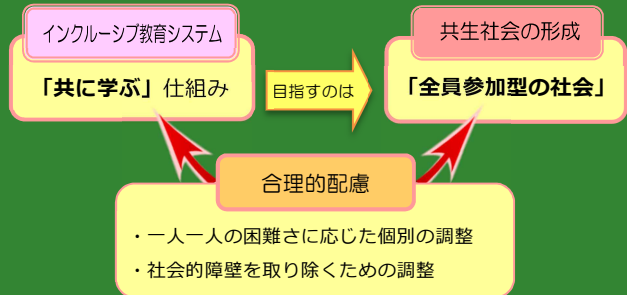
■ 障害者の権利に関する条約を批准（平成 26 年 1 月）

・ 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の施行（平成 28 年 4 月）

2 インクルーシブ教育システムとは

「インクルーシブ教育システム (inclusive education system)」とは、人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みです。

そこでは、障害のある者が一般的な教育制度 (general education system) から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」 (reasonable accommodation) が提供されること等が必要とされています。



3 インクルーシブ教育と特別支援教育の関係

特別支援教育は、共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものです。そのため、以下の①から③までの考え方に基づき、特別支援教育を推進させていくことが必要です。

- ① 障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加することができるよう、医療、保健、福祉、労働等との連携を強化し、社会全体の様々な機能を活用して、十分な教育が受けられるよう、障害のある子どもの教育の充実を図ることが重要である。
- ② 障害のある子どもが、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることができるよう、地域の同世代の子どもや人々の交流等を通して、地域での生活基盤を形成することが求められている。このため、可能な限り共に学ぶことができるよう配慮することが重要である。
- ③ 特別支援教育に関連して、障害者理解を推進することにより、周囲の人々が、障害のある人や子どもと共に学び合い生きる中で、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎を作っていくことが重要である。次代を担う子どもに対し、学校において、これを率先して進めていくことは、インクルーシブな社会の構築につながる。



インクルーシブ教育について深く学んでみませんか？

インクルーシブ教育システム構築のため、教師一人一人の特別支援教育に関する理解や認識の深まりが求められています。特に発達障害に関する理解や認識は、通常の学級で学んでいる発達障害の特性を有する子どもたちの困難さや認知特性の理解、さらには教育的ニーズに応えるために必要です。「特別支援教育を充実させるための教職員の専門性向上」について深めてみませんか。

文部科学省 インクルーシブ教育

検索

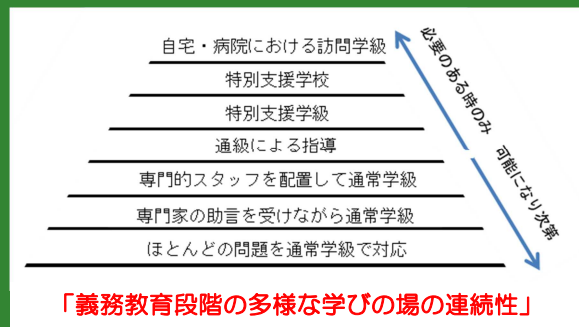
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm)

4 多様な学びの場とは

「多様な学びの場」とは、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった学びの場のことを示しています。

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確にこたえる指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整えているところです。

就学時に決定した「学びの場」は固定したものではなく、それぞれの児童生徒の発達の程度、適応の状況等を勘案しながら柔軟に転学できること、多様な学びの場が相互に連携していくことが重要になります。



(上記表は文部科学省HPより引用)

インクルーシブ教育システム



Q 1 : インクルーシブ教育システム構築のために教師に必要な専門性とは何ですか？

A 1 : 全ての教師に求められる「集団形成（学級づくり）」、「学習指導（授業づくり）」、「生徒指導」という教育の専門性に加え、「特別支援教育に関する知識・技能の活用」、「教職員及び関係者の連携・協働」、「共生社会の形成に関する意識」という3つの要素を含めて特別支援教育の専門性を深めることが大切です。

Q 2 : 具体的にどのようなことをしたらいいのか分からないのですが。

A 2 : 宮城県総合教育センターHPには、宮城県教職員研修計画（研修会ガイド）や、特別支援教育に関する専門研究・長期研修の成果物がたくさん掲載されています。まずは、HPを検索してみてください。

宮城県総合教育センター

検索

(<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>)

「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 インクルDB」を参考にしましょう。

文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索することができます。

インクルDB

検索

(<http://inclusive.nise.go.jp/>)



1 授業UDとは

「授業UD」とは、「障害者の権利に関する条約」において定義されている「ユニバーサルデザイン（調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計）」の考え方を取り入れた授業のことです。

具体的には、

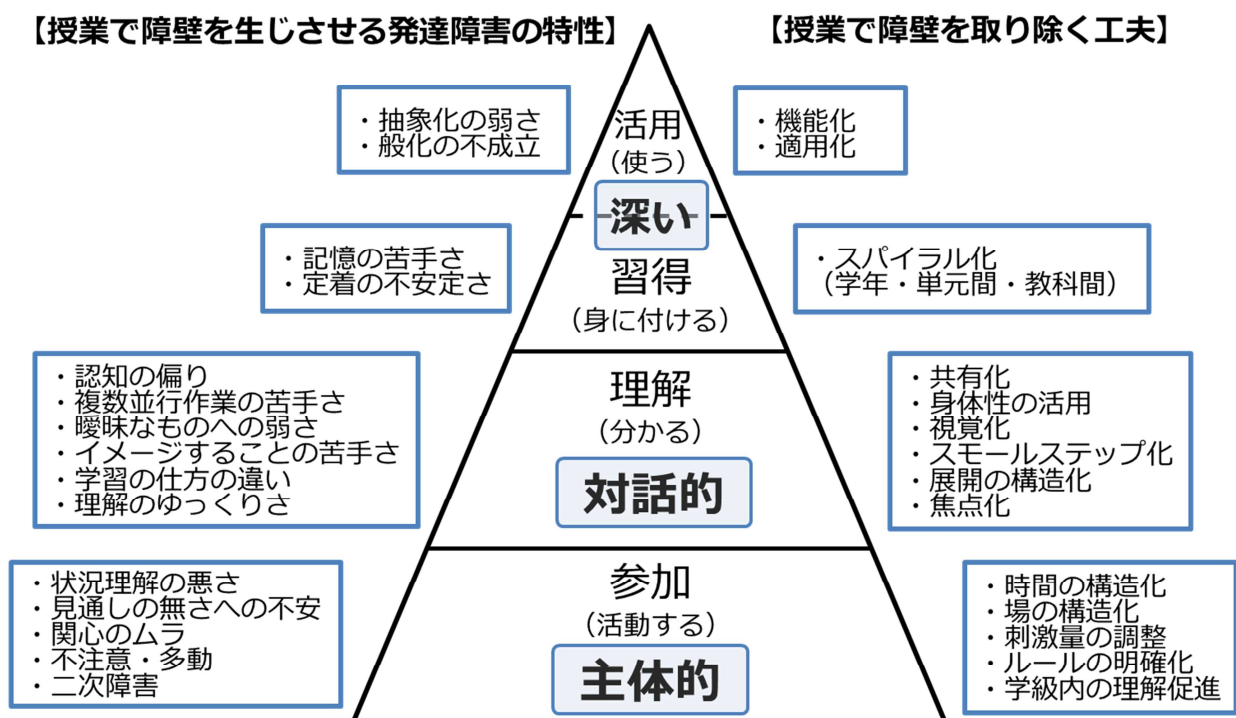
「学力の優劣や発達障害の有無に関わらず、すべての子どもが楽しく学び合い『わかる・できる』ように、工夫・配慮された通常学級における授業」

です。

ユニバーサルデザインの視点による工夫・配慮は、発達障害の特性を有する生徒にとっては「なくては困る支援」、その他の周囲の生徒にとっては「あると便利な支援」になります。



授業づくりの視点を「授業UDの階層モデル」を参考に考える



中央の三角形は、授業を「参加」「理解」「習得」「活用」の4階層で捉えたものです。三角形の左側に、授業で障壁を生じさせる発達障害の特性が示され、三角形の右側には、授業で障壁を取り除く工夫が示されています。また、「参加」の障壁を取り除く工夫には、「授業を支える環境づくり」と関連する部分も多くあると考えます。また、主体的な学びは「参加」の階層、対話的な学びは「理解」の階層、深い学びは「習得」「活用」の階層に該当すると考えられています。

授業で障壁を取り除く工夫の具体例

1 「参加（活動する）」

- (1) 学級内の理解促進
 - ・ 失敗をからかわない、笑わない学級の雰囲気をつくり、分からないことを安心して表明できるようにする。
 - ・ 得意、不得意を含めたお互いの理解を機会がある度に行う。
- (2) ルールの明確化
 - ・ 質問の仕方、意見の伝え方、話合いの仕方など基本的な授業のルールを決め、授業参加をやすくする。
- (3) 刺激量の調整
 - ・ 教室内の掲示物や棚の中身、教室内外の雑音などの無意識に飛び込んでくる妨害刺激を調整し、授業から気持ちが離れることを防ぐ。
- (4) 場の構造化
 - ・ 教室内の物品を決められた場所に置くことで、全ての生徒が無駄な動きをせず物品を使えるようにする。
 - ・ 板書する際に、どこに何を書くか、どの色のチョークを使うかなどをあらかじめ決め、授業の流れが分かるようにする。
- (5) 時間の構造化
 - ・ 授業の流れを黒板に示して活動に見通しを持たせ、行動をコントロールしやすくする。

2 「理解（分かる）」

- (1) 焦点化
 - ・ 授業のねらいや活動、発問などを絞る。学習内容や活動をシンプルにしたり、間口の狭い発問にしたりすることで、生徒にとって取り組みやすく理解しやすい授業にする。
- (2) 展開の構造化
 - ・ 授業の焦点化に基づき、授業の進め方や説明の方法、何を体験させるかを決めるなど、授業の展開を論理的に構成する。
- (3) スモールステップ化
 - ・ 生徒が目標に到達しやすくするために、学習過程に細やかな段階をつくる。
- (4) 視覚化
 - ・ 挿絵、写真、動画、センテンスカードなどを効果的に活用することで、視覚的な手掛かりからも理解できるようにする。
- (5) 身体性の活用
 - ・ 感覚的に取り入れたことを動作化、作業化させることで理解を深められるようにする。
- (6) 共有化
 - ・ ペア学習やグループ学習など話合い活動を組織化して、理解を学級全体で図る。
 - ・ 理解の遅い生徒は、他の生徒の意見を聞いて理解を進めさせ、理解の早い生徒は自分の意見を説明することでより深い理解に到達させる。

3 「習得（身に付ける）」

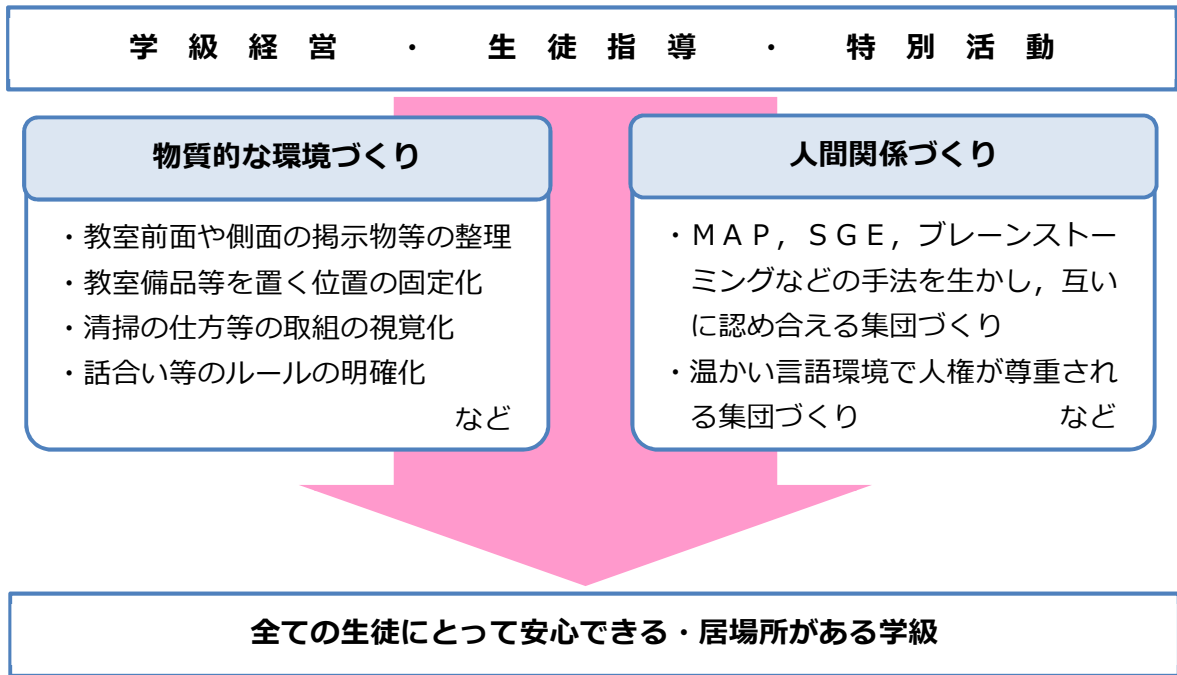
- (1) スパイラル化
 - ・ 既習事項の復習を授業で行い、再理解の機会や理解の深まりを確保する。
 - ・ 他教科の学習内容と連携させる。

4 「活用（使う）」

- (1) 適用化
 - ・ ある単元で学んだ「見方・考え方」を意図的に別の単元でも生かせるようにする。
- (2) 機能化
 - ・ 授業で習得した知識、技能を実用的に活用できるようにする。

2 授業を支える環境づくり

授業UDの中心は授業づくりですが、学級経営や生徒指導、特別活動などによる「全ての生徒にとって安心できる・居場所がある学級づくり」に支えられている部分が非常に大きいと言えます。特に授業UDの階層モデルの「参加（活動する）」に関連します。



具体的な手立ては、平成29年度宮城県総合教育センター特別支援教育研究グループの研究成果物「児童生徒の理解と支援のための研修パック」の「教育環境等の整備（その1）（その2）」を参照してください。

専門研究 特別支援教育研究グループ 児童生徒の理解と支援のための 研修パック

理解と支援のための研修パックとは…
特別支援教育や発達障害等の基礎的な知識を理解した上で、児童生徒への適切な支援を教員間で連携して行うための研修資料をまとめたものです。より実務的な研修ができるように、発達段階に合わせて3種類の研修を作成しました。あなたの学校に合わせた研修を行うことができます。



研修パック
ダウンロードはこちらから

- 小学校 小学部編
- 中学校 中学部編
- 高等学校 高等部編

理解と支援のための研修パック

(http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/rikai_shien/)

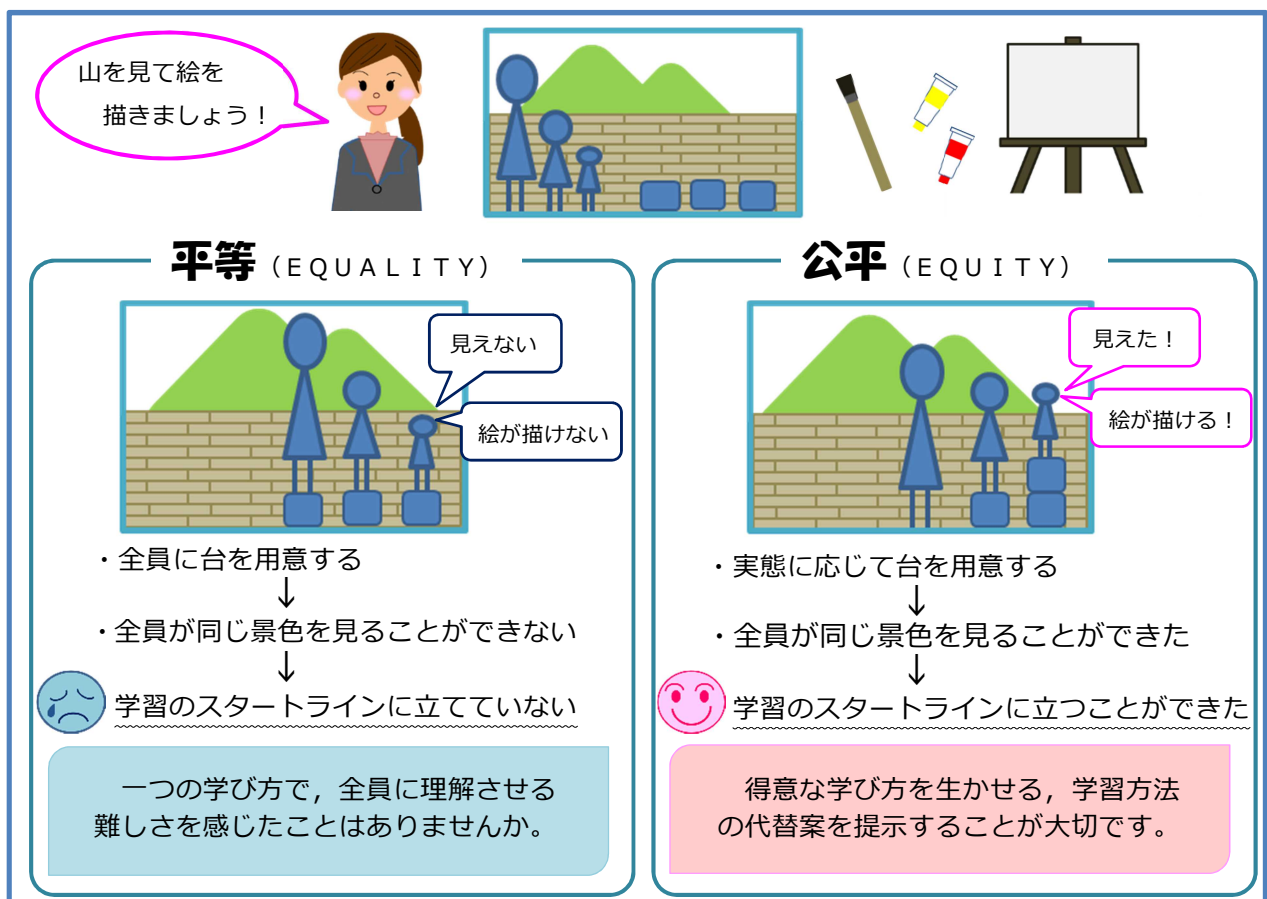
知識編

1 合理的配慮とは

「合理的配慮」とは、障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を保障するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことです。

「障害のある子どもが他の子どもと平等に教育を受ける」ことができるよう、障害のある子どもの特性や困難さに合わせて個別に「合理的配慮」を提供し、他の子どもと同じ「学習のスタートラインに立たせる」ことが大切です。

「合理的配慮」の決定・提供に当たっては、学校の設置者及び学校が体制面、財政面をも勘案し、「均衡を失した」又は「過度の負担」にならないよう留意する必要があります。



合理的配慮

Point

障害のある子どもが、他の子どもと同じように学ぶことができるよう
「一人一人の実態に応じて、個別に提供されるもの」

2 合理的配慮の観点

3 観点 11 項目

平成 28 年 4 月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」により、本人・保護者から合理的配慮を求める申出があった場合、過度の負担でない範囲であれば合理的配慮を提供する必要があります。

これまで学校で行われてきた配慮を、この観点に沿って改めて整理し、どの場面で、誰が、どのような支援を行うのか明確にして提供していくことが大切です。そうすることで、不足していた部分に気付いたり、新たな配慮を考えたりすることができます。

観 点	項 目	
①教育内容 ・ 方法	①-1 教育内容	
	①-1-1	学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
	①-1-2	学習内容の変更・調整
	①-2 教育方法	
	①-2-1	情報・コミュニケーション及び教材の配慮
	①-2-2	学習機会や体験の確保
②支援体制	①-2-3	心理面・健康面の配慮
	②-1	専門性のある指導体制の整備
	②-2	幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
③施設・設備	②-3	災害時等の支援体制の整備
	③-1	校内環境のバリアフリー化
	③-2	発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
	③-3	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

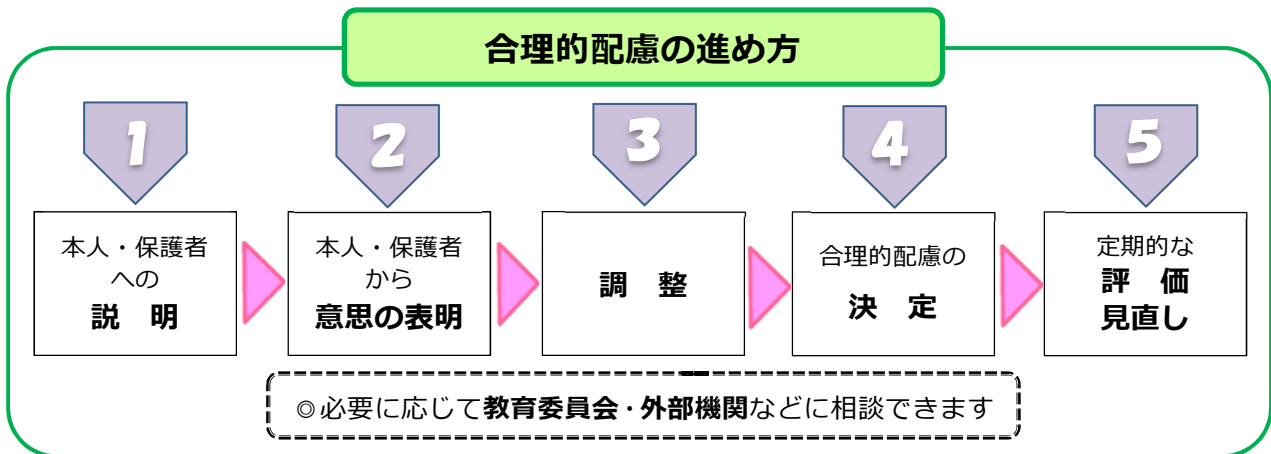
具体的には、以下のような内容が考えられます

生徒の様子	合理的配慮の例
板書を写すことや作文を書くことに時間がかかる。	ICT 機器を活用し板書を写すことや、ワープロ機能や音声入力アプリを使って作文を完成させることを認める。(①-1-1)
水に触れることが苦手で、清掃時に雑巾を絞ることができない。	使い捨てゴム手袋の着用や雑巾を装着できるモップの使用を認める。(①-2-3)
指示を理解することが難しく、初めてのことに對しての抵抗感も強いいため高校進学に不安を抱えている。	特別支援教育コーディネーターが中心となり、中学校と高等学校、保護者と学校との連携を図り指導や支援を進める。(②-1)
大きい集団や騒がしくなる活動では落ち着かなくなり、徐々にその場にいることが難しくなる。	落ち着かなくなった時に、クールダウンができる部屋やスペースを確保する。(③-2)



あくまで一例です。同じ障害の診断を受けていても、生徒の様子や教育的ニーズ、基礎的環境整備により、合理的配慮の内容は変わること留意する必要があります。

3 合理的配慮の提供に向けて



合理的配慮の提供に当たってのポイント

建設的な対話を心掛ける

学校は地域や家庭などの理解・協力の上で成り立っており、その基礎となるのは相互の信頼関係です。そして、共有すべき目標は子どもの成長です。目標達成に向けてお互いに意思の疎通を図り続けることが大切です。

「合理的配慮」の提供を検討する際は、本人・保護者の気持ちに寄り添う姿勢が大切になります。しかし、全て本人・保護者の申出どおりにはできない場合があると思います。その際は、アイデアを出し合い、代替案を提示してお互いが納得できる結論を出すことが大切です。

教職員が共通理解を図る

「合理的配慮」を提供するのは「学校の設置者及び学校」です。担任や授業者など、障害のある子どもに直接的に関わる者だけが配慮すればいいのではありません。**インクルーシブ教育システムを構築していくために、組織として合理的配慮を検討・提供することが必要になります。**

周囲の子どもの理解を得る

「合理的配慮」は、障害の状態や教育的ニーズなどに応じ、特定場面で個別に提供されるものです。あくまで障害のない者と平等に学ぶ権利を確保するためであり、特別扱いではありません。人はそれぞれ認知特性に違いがあり、得意な学び方が異なることを周囲の子どもたちに理解してもらうことが「**周囲の子どもの理解を得る**」第一歩です。

他者理解を深め、子どもの多様性を踏まえた学級・学校づくりを目指すことで、困ったときはお互い様の意識を育てることができ、障害のある子どもたちだけでなく、全ての子どもたちにとって居心地の良い環境につながります。

合理的配慮の提供までのプロセス

※チェック表としてもお使いください。

事前に

校内体制の確認

- 校内研修で発達障害等についての理解を深める
(研修パックの活用：平成 29 年度宮城県総合教育センター特別支援教育研究グループ作成等)
- 学校全体で、合理的配慮の意思の表明から提供までの流れについて共通理解する

本人・保護者への説明 (学校だよりや学校説明会などを活用)

- 合理的配慮は新しい概念であるため、正しく伝える
- 学校として、担当者、内容、相談窓口などを伝える

決定に向けて

◎必要に応じて教育委員会・外部機関などに相談できます

本人・保護者からの意思の表明

観点 思いや要望を十分に聞き取り、共感する姿勢を大切にする

本人の実態把握 (担任・コーディネーターなど)

- 教師の見立てや引継ぎ資料、諸検査の結果などから実態を把握する
- 本人・保護者との面談で聞き取る

本人・保護者と検討 (担任・コーディネーターなど)

- 観点 合理的配慮の目的に合っているか
- 観点 申出を踏まえた合理的配慮となっているか
- 申出に対応が困難な場合に代替を提案する

学年部会、校内委員会などで検討

- 観点 合理的配慮の目的に合っているか
- 観点 過度な負担になっていないか
- ← 観点 いつ、誰が、どの場面で行うのか

合理的配慮の決定

観点 本人・保護者・学校で合意形成が図られたか

- 職員会議等で周知する
- 個別の教育支援計画に明記する

合理的配慮の提供

提供

- 学校として組織的に提供する
- 変更を記録し、全職員で情報を共有する

定期的な評価

- 観点 本人に十分な教育を提供できているか
- 観点 個別の教育支援計画に基づいて行えているか

柔軟な見直し

- 本人の成長や教育的ニーズ、基礎的環境整備などを考慮し見直す
- 進級、進学時には引継ぎをし、切れ目ない支援を行う

4 合理的配慮 Q & A

Q 1 : 「合理的配慮」は何を目指して、何のために提供するのですか？

A 1 : 「合理的配慮」は「共生社会」の実現を目指し、社会的障壁を取り除くために行われる必要かつ適当な変更・調整のことです。学校教育においては、障害のある子どもが障害のない子どもと可能な限り共に学ぶことができるよう、実態に応じて個別に提供するものです。

Q 2 : 「合理的配慮」は提供しなければいけないのですか？

A 2 : 「障害があるから」という理由で、教育を受ける権利が奪われてはいけません。障害のある子どもが他の子どもと平等に十分な教育を受けるために「合理的配慮」は必要です。

Q 3 : 個人面談の際に、保護者から「合理的配慮」の意思の表明がありました。担任のできる範囲であればその場で合意形成してもよいのですか？

A 3 : 担任一人だけで行うものではありません。「合理的配慮」の合意形成・提供を行うのは「学校の設置者及び学校」です。学校全体で取り組みながら、場合によっては外部の専門家や特別支援学校の支援を得て取り組むケースもあります。本人・保護者から意思の表明を受けたときは、担任は要望を十分に聞き取り学校全体で検討することが重要です。(p.44 を参考にしてください。)

Q 4 : 本人・保護者から意思の表明がなければ、「合理的配慮」を提供しなくてもいいですか？

A 4 : 学校等においては、子どもが「十分な教育を受けられているかどうか」という視点から判断していくことが重要で、教員の見立てがきっかけになる場合もあります。本人・保護者から意思の表明がない場合でも、子どもが十分な教育を受けることができなければ、本人や保護者に働き掛けるよう努めることが望ましいとされています。





Q 5 : 本人及び保護者との合意形成を図る際に留意すべき点は何ですか？

A 5 : 「学校が本人及び保護者に対し十分情報を提供すること」や、「本人・保護者の意見を最大限尊重すること」など、「建設的な対話」を心掛けて対応することが求められています。

Q 6 : 合意形成が困難な時はどうすればよいですか？

A 6 : 校内委員会を含む校内体制への接続が確実に行われるようにし、校長のリーダーシップの下、合意形成に向けた検討を組織的に行うことが必要です。それでもなお合意形成が難しい場合には、市町村教育委員会に設置される「教育支援委員会」(仮称)の助言等により、その解決を図ることが望まれます。

Q 7 : 障害の診断がない生徒に、「合理的配慮」を提供する必要はないのですか？

A 7 : 「合理的配慮」の対象者となる定義は、「障害及び社会的障壁により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの(障害者基本法第2条)」とされており、医師の診断の有無は「合理的配慮」提供の判断基準にはなりません。障害の診断のある子どもだけではなく、教育的ニーズのある全ての子どもに対して提供するものです。

Q 8 : 体制面・財政面から「均衡を失した」「過度の負担」とはどの程度ですか？

A 8 : 一律の判断基準はありません。「合理的配慮」の決定・提供に当たっては、各学校の設置者及び学校が体制面、財政面をも勘案し、「均衡を失した」又は「過度の負担」について、個別に判断することとなります。その際、現在必要とされている「合理的配慮」は何か、何を優先して提供する必要があるかなどについて関係者間で共通理解を図る必要があります。

Q 9 : 「合理的配慮」の評価、見直しはどのように行えばよいですか？

A 9 : 「合理的配慮」は、その提供によって「障害のある子ども一人一人が十分な教育を受けているか」という観点から評価します。その際、子ども一人一人の発達程度、適応の状態を勘案しながら柔軟に見直しを行う必要があります。

1 基礎的環境整備とは

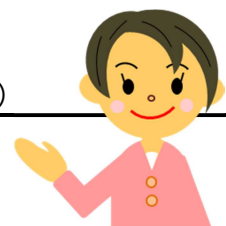
「基礎的環境整備」とは、「合理的配慮」の基礎となる教育環境の整備のことです。インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、障害のある子どもだけではなく、多くの子どもにとっても有益なものになります。

全部で8項目あり，国，都道府県，市町村が財源を確保し役割分担をして実施します。

その際も、「合理的配慮」と同様に体制面，財政面を勘案し，均衡を失した又は過度の負担を課さないよう留意する必要があります。

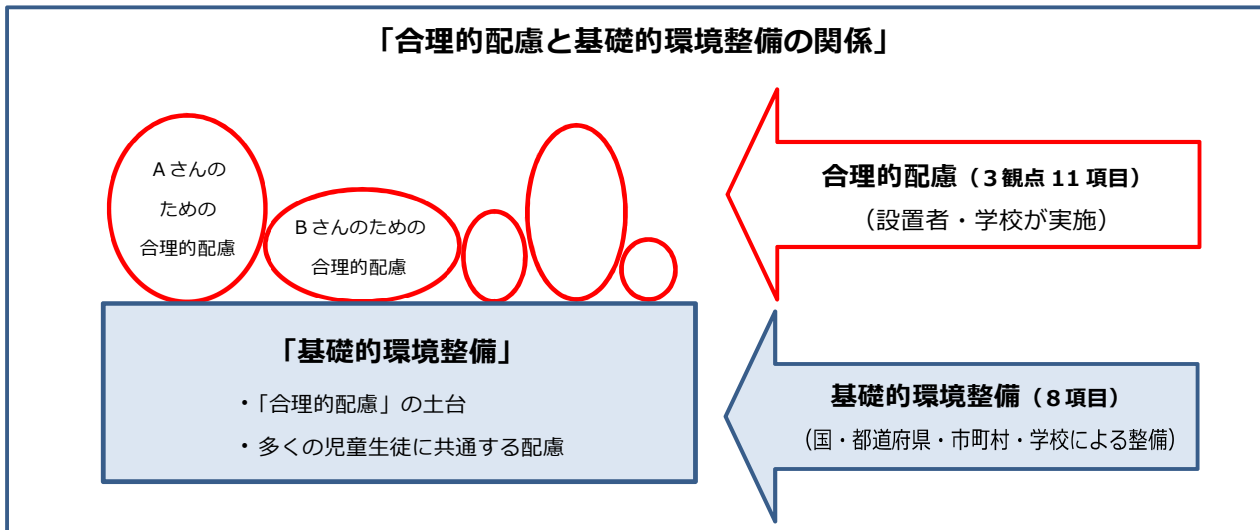


基礎的環境整備（8項目）		具体例
①	ネットワークの形成・連続性のある多様な学び場の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校のセンター的機能 ・通常の学級，通級による指導，特別支援学級，特別支援学校といった多様な学び場
②	専門性のある指導体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する校内委員会の設置 ・特別支援教育コーディネーターの指名 ・外部の専門家を活用した指導体制の整備
③	個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な教育的ニーズに応えるための系統的，組織的な支援
④	教材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・音声教材等の整備の充実 ・拡大教科書等の活用
⑤	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設のバリアフリー化や，障害に適應した教育を実施する上で必要とする設備の整備
⑥	専門性のある教員，支援員等の人的配置	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上を図るための研修 ・特別支援教育支援員の配置
⑦	個に応じた指導や学び場の設定等による特別な指導	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な教育課程の編成等
⑧	交流及び共同学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校学習 ・共に学ぶ教育推進モデル事業（宮城県特別支援教育将来構想）



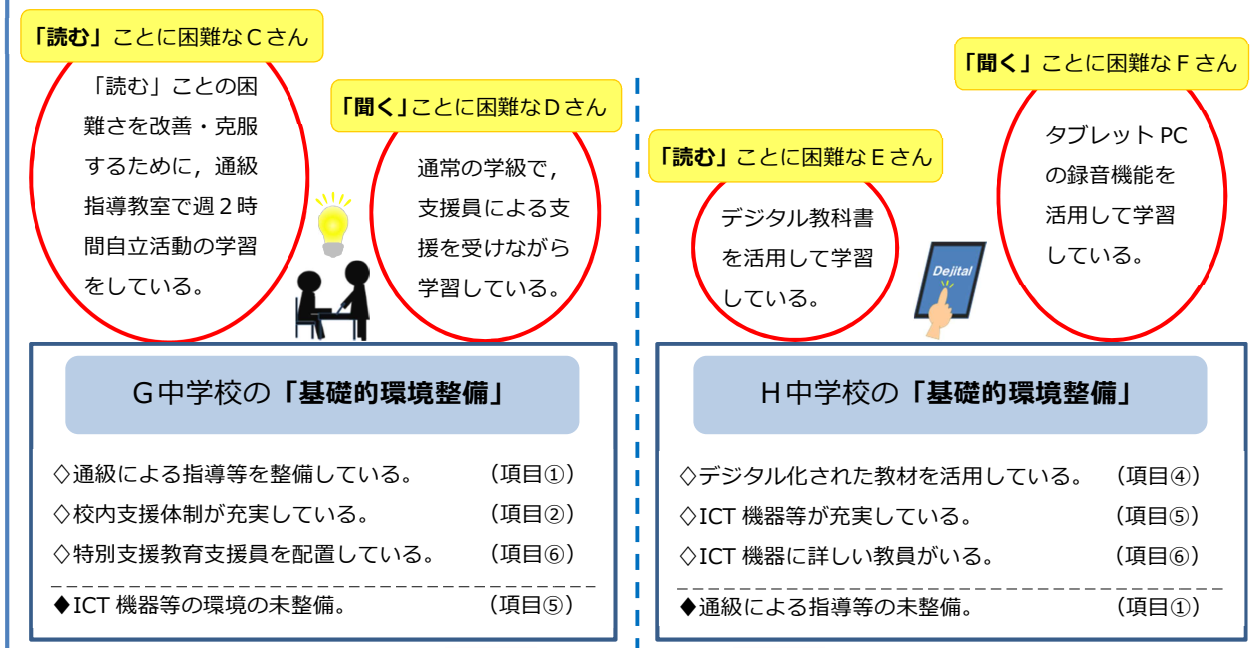
2 合理的配慮と基礎的環境整備の関係

「合理的配慮」の充実を図る上で、「基礎的環境整備」の充実は欠かせません。そのため、国、都道府県、市町村は、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、「基礎的環境整備」の充実を図っていく必要があります。



◎ 同じような困難さでも、「基礎的環境整備」の状況により「合理的配慮」は異なります。

◎ 「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に個別に決定されるものです。



それぞれの学校における「基礎的環境整備」の状況は、県・市町村によって違いがあります。